第２章　調査結果

第２章　調査結果

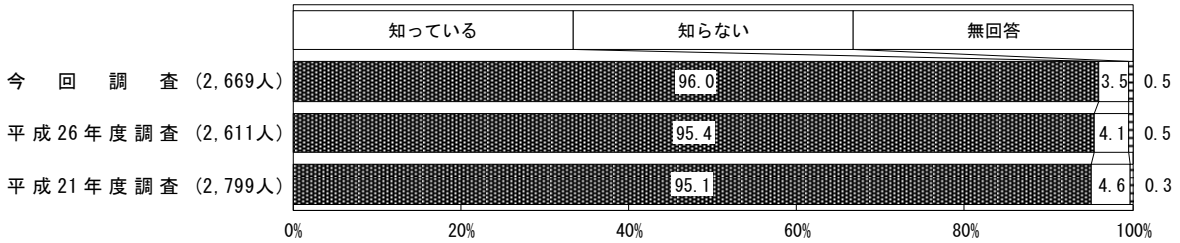
１　暴力に対する認識について

問１　「ＤＶ」および「デートＤＶ」という言葉と内容の認知度

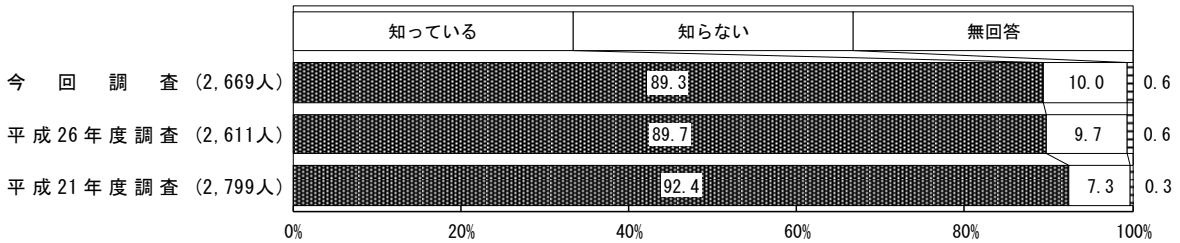
問１　あなたは「ＤＶ」、「デートＤＶ」という言葉やその内容を知っていますか。
それぞれの項目について当てはまる方に〇をつけてください。

図表１　ＤＶの認知度（時系列）

「ＤＶ」という言葉

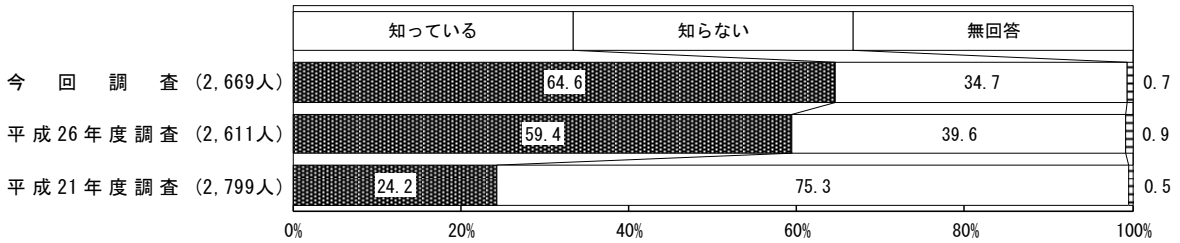


「ＤＶ」の内容

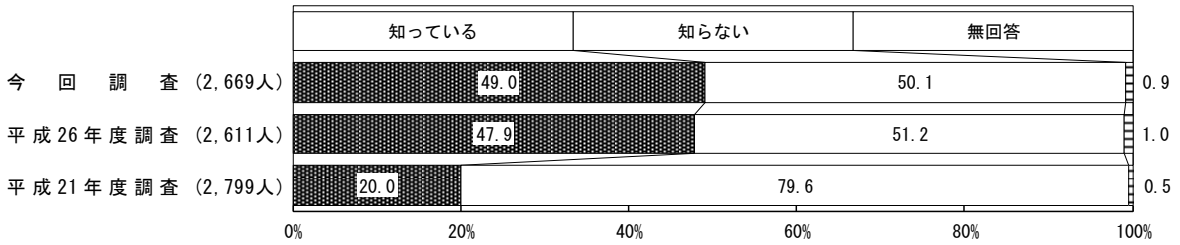


図表２　デートＤＶの認知度（時系列）

「デートＤＶ」という言葉



「デートＤＶ」の内容

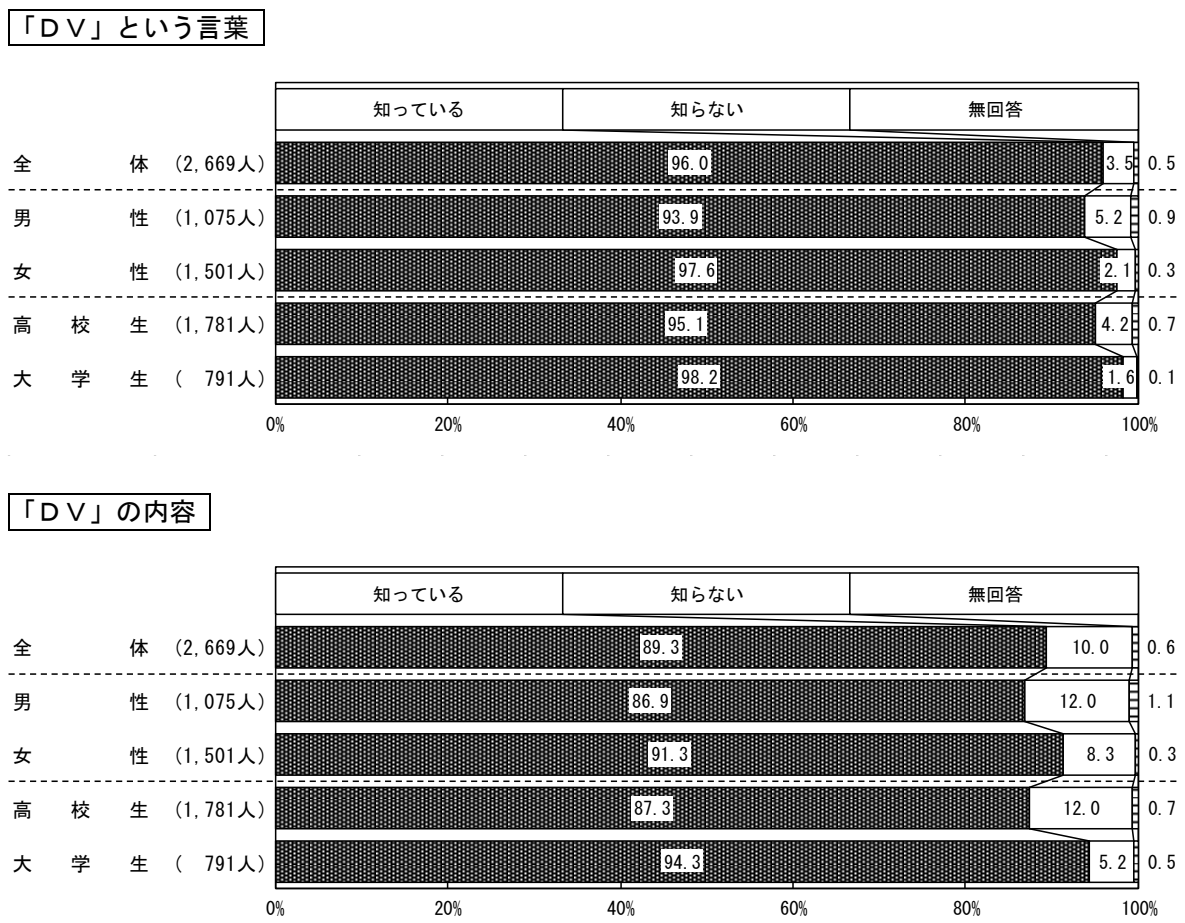


■全体の傾向

言葉を「知っている」と回答した割合は、「ＤＶ」96.0%に対し、「デートＤＶ」は 64.6%となっています。内容についても「知っている」と回答した割合は、「ＤＶ」89.3%に対し、「デートＤＶ」49.0%となっています。

過去の調査結果と比較すると、平成 21 年度以降、「ＤＶ」という言葉の認知度は９割以上、内容についても９割前後を維持しています。一方、「デートＤＶ」の認知度は増加傾向にあり、平成 26 年度と比べ、言葉（59.4%→64.6%）は約５ポイント、内容（47.9%→49.0%）もやや増加しています。（図表１．２）

図表３　ＤＶの認知度（男女別・年代列）



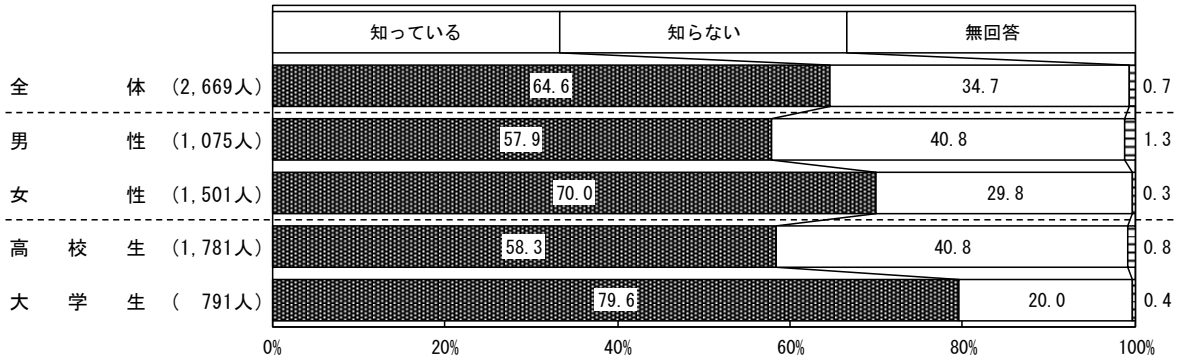
■男女別および年代別の傾向

「ＤＶ」という言葉の認知度はいずれも９割を超えていますが、女性（97.6%）、大学生（98.2%）が男性（93.9%）、高校生（95.1%）よりやや高くなっています。

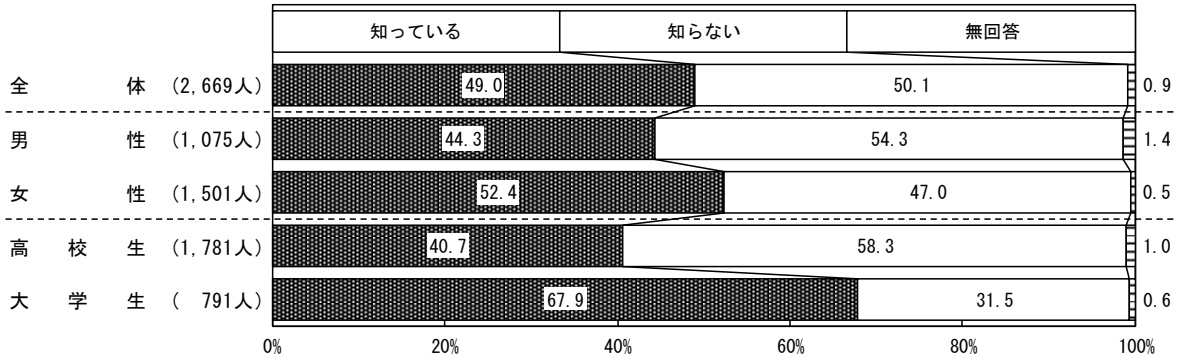
「ＤＶ」の内容についても、女性（91.3%）が男性（86.9%）を、大学生（94.3%）が高校生（87.3%）を上回っており、高校生と大学生の認知度には７ポイントの差があります。（図表３）

図表４　デートＤＶの認知度（男女別・年代列）

「デートＤＶ」という言葉



「デートＤＶ」の内容



■男女別および年代別の傾向

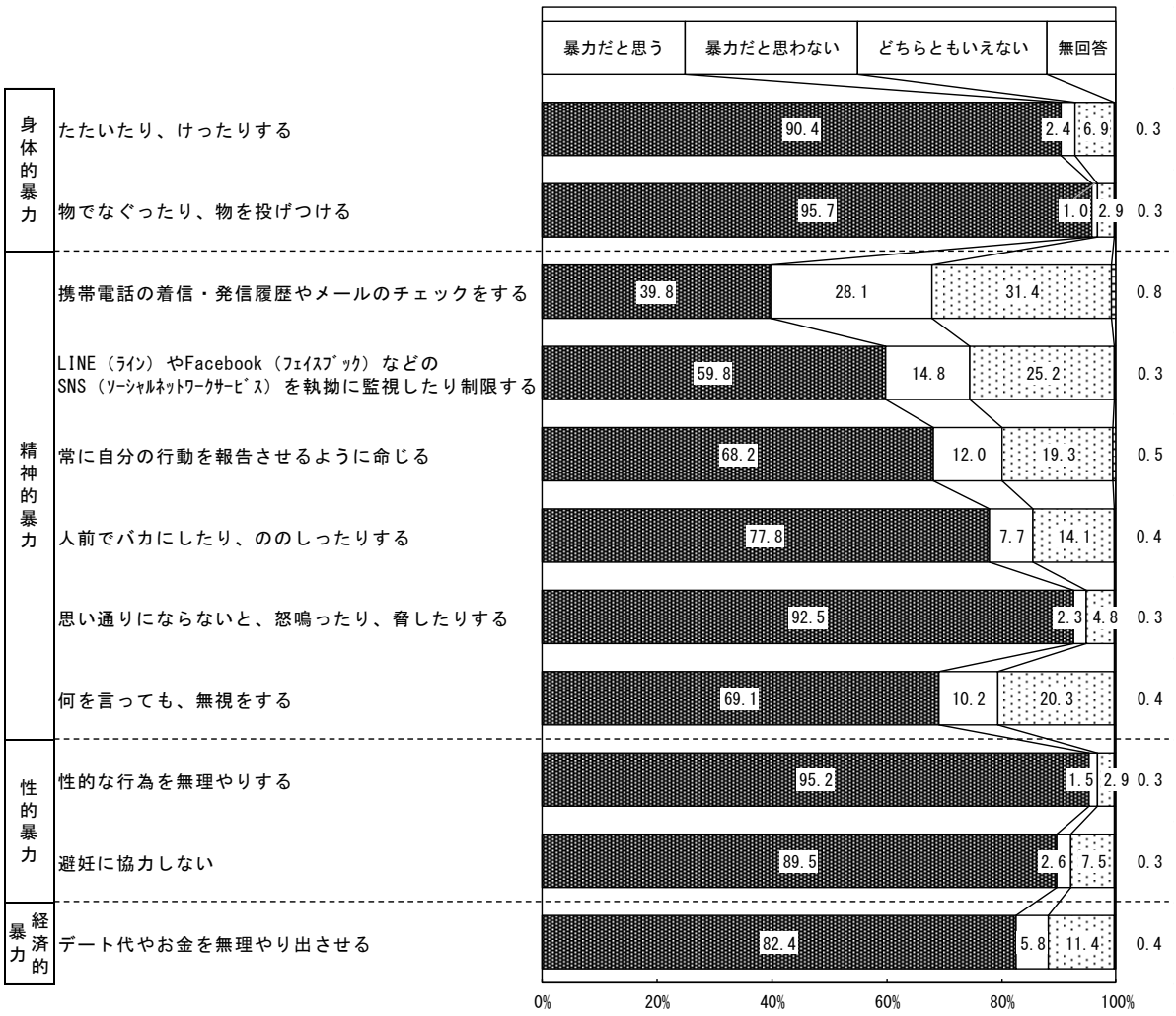
「デートＤＶ」という言葉の認知度は、女性（70.0%）が男性（57.9%）より１割以上、大学生（79.6%）が高校生（58.3%）より２割以上高くなっています。

「デートＤＶ」の内容についても、女性（52.4%）が男性（44.3%）を、大学生（67.9%）が高校生（40.7%）を上回っており、特に高校生と大学生の認知度には３割弱の差が生じています。（図表４）

問２　暴力の認識

問２　交際相手から以下のような行為があった場合、あなたはそれをどのように受け止めますか。それぞれの項目について、最も当てはまると思うところに○をつけてください。

図表５　暴力の認識（n=2,669）



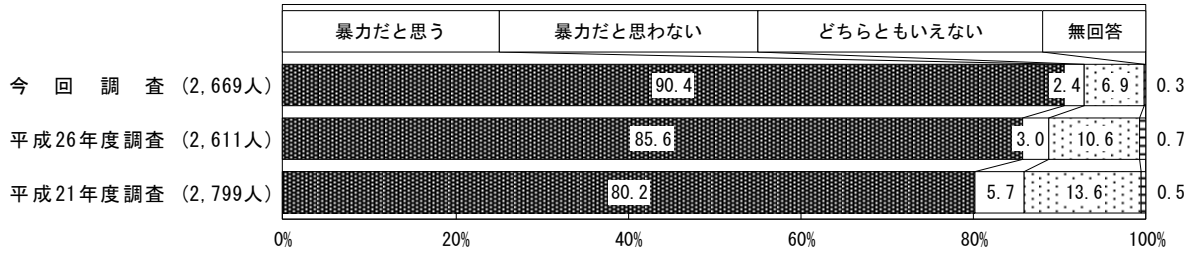
■全体の傾向

身体的暴力、性的暴力については９割前後、経済的暴力についても８割強が「暴力だと思う」と回答しています。一方、精神的暴力については、「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」で「暴力だと思う」（92.5%）割合が９割を超える一方、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」で「暴力だと思う」（39.8%）割合が４割を下回るなど、身体的・性的・経済的暴力に比べて暴力という認識が低くなっています。（図表５）

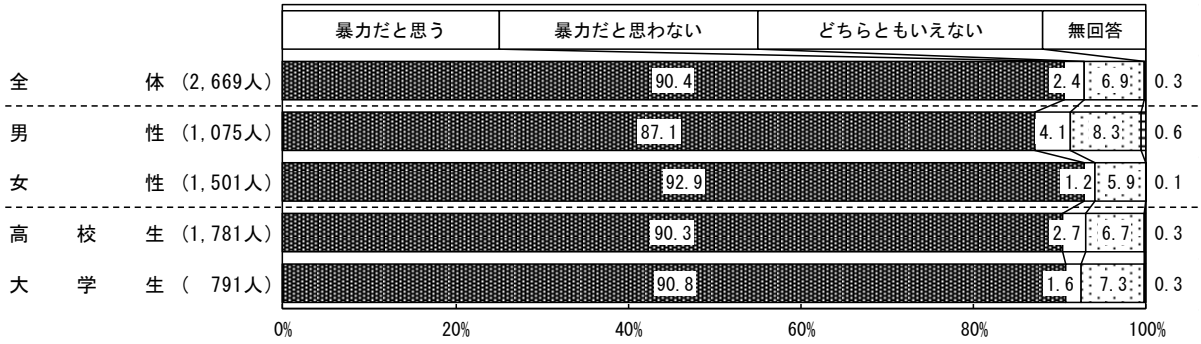
①身体的暴力

1　たたいたり、けったりする

図表６　暴力の認識「たたいたり、けったりする」（時系列）



図表７　暴力の認識「たたいたり、けったりする」（男女別・年代別）



■全体の傾向

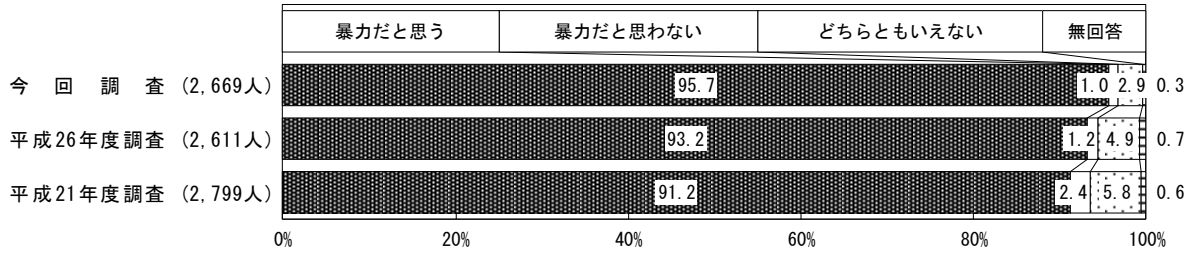
過去の調査結果と比較すると、「たたいたり、けったりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は増加傾向にあり、令和元年度（90.4%）は平成 26 年度（85.6%）より 4.8 ポイント増加しています。（図表６）

■男女別および年代別の傾向

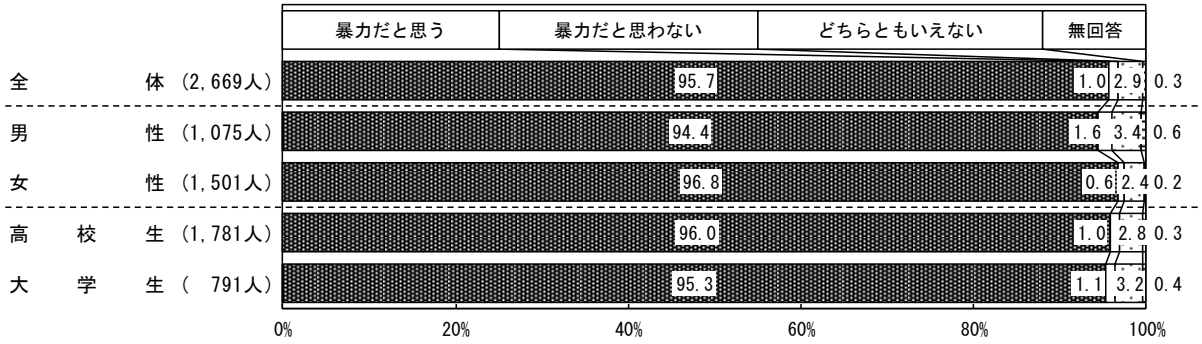
男女別にみると、「たたいたり、けったりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は女性（92.9%）で９割を超えるのに対し、男性（87.1%）は 5.8 ポイント低くなっています。一方、高校生（90.3%）と大学生（90.8%）の間に大きな差はみられません。（図表７）

２　物でなぐったり、物を投げつける

図表８　暴力の認識「物でなぐったり、物を投げつける」（時系列）



図表９　暴力の認識「物でなぐったり、物を投げつける」（男女別・年代別）



■全体の傾向

過去の調査結果と比較すると、「物でなぐったり、物を投げつける」を「暴力だと思う」と回答した割合は平成 21 年度以降９割を超えており、増加傾向が続いています。（図表８）

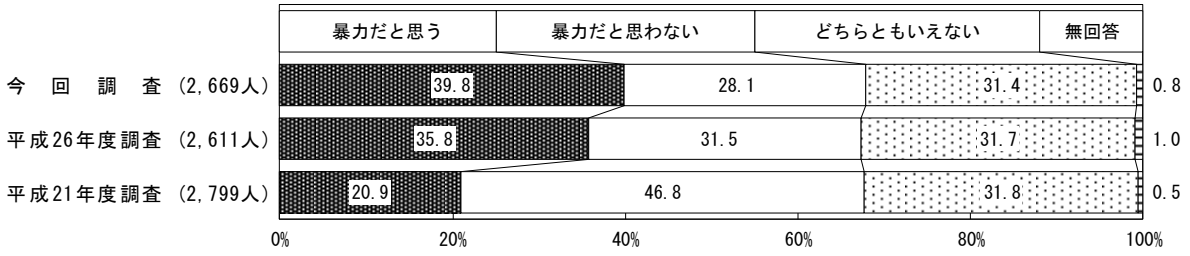
■男女別および年代別の傾向

「物でなぐったり、物を投げつける」を「暴力だと思う」と回答した割合は全ての属性で９割を超えており、男性（94.4%）と女性（96.8%）、高校生（96.0%）と大学生（95.3%）の間に大きな差はみられません。（図表９）

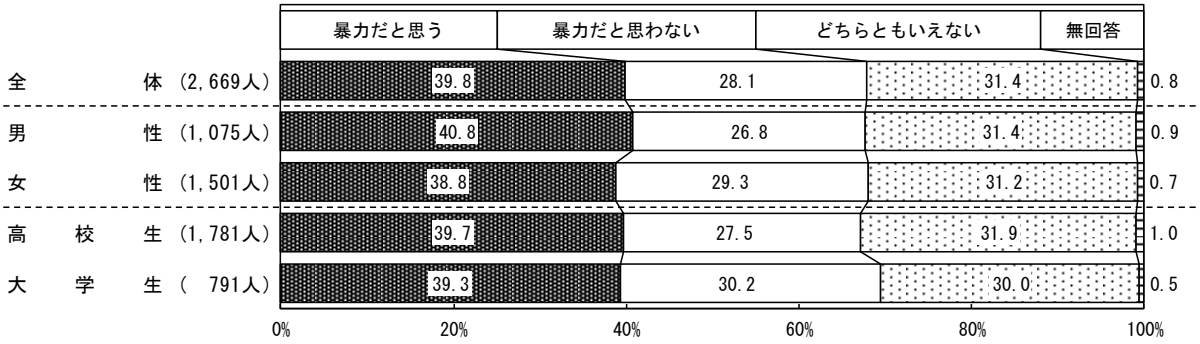
②精神的暴力

3　携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする

図表 10　暴力の認識「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（時系列）



図表 11　暴力の認識「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（男女別・年代別）



■全体の傾向

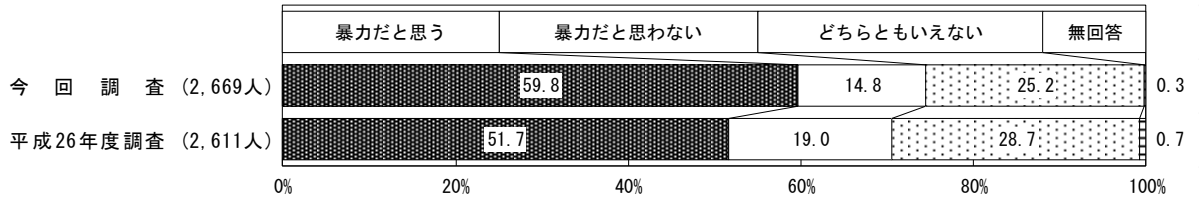
過去の調査結果と比較すると、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」を「暴力だと思う」と回答した割合は増加傾向にあり、令和元年度（39.8%）は平成 26 年度（35.8%）より４ポイント増加しています。（図表 10）

■男女別および年代別の傾向

「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」を「暴力だと思う」と回答した割合は全ての属性で４割前後となっており、男性（40.8%）と女性（38.8%）、高校生（39.7%）と大学生（39.3%）の間に大きな差はみられません。（図表 11）

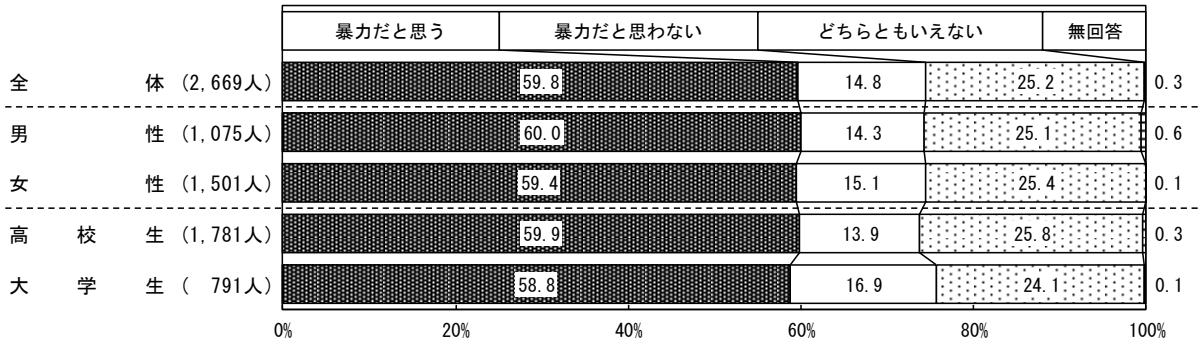
4　LINE（ﾗｲﾝ）やFacebook（ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ）などのSNS（ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ）を執拗に監視したり制限する

図表 12　暴力の認識「LINE（ﾗｲﾝ）やFacebook（ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ）などのSNS（ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ）を執拗に監視したり制限する」（時系列）



（注記）平成21年度調査では、「LINE（ﾗｲﾝ）やFacebook（ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ）などのSNS（ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ）を執拗に監視したり制限する」の設問項目なし

図表 13　暴力の認識「LINE（ﾗｲﾝ）やFacebook（ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ）などのSNS（ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ）を執拗に監視したり制限する」（男女別・年代別）



■全体の傾向

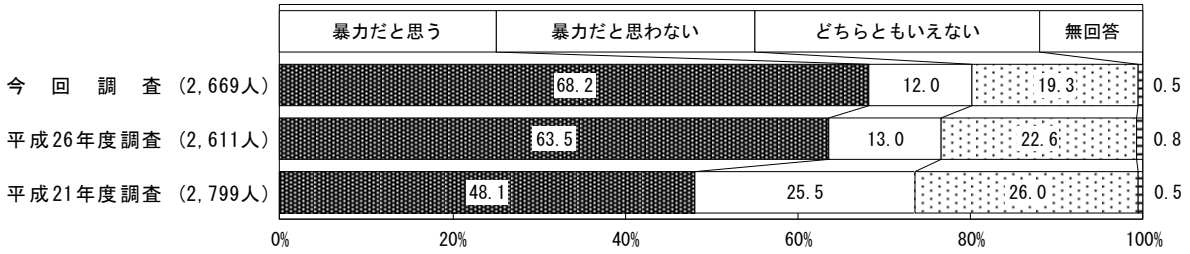
「LINE(ﾗｲﾝ)やFacebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)などのSNS(ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ)を執拗に監視したり制限する」を「暴力だと思う」と回答した割合は、令和元年度（59.8%）は平成26年度（51.7%）より8.1ポイント増加しています。(図表12)

■男女別および年代別の傾向

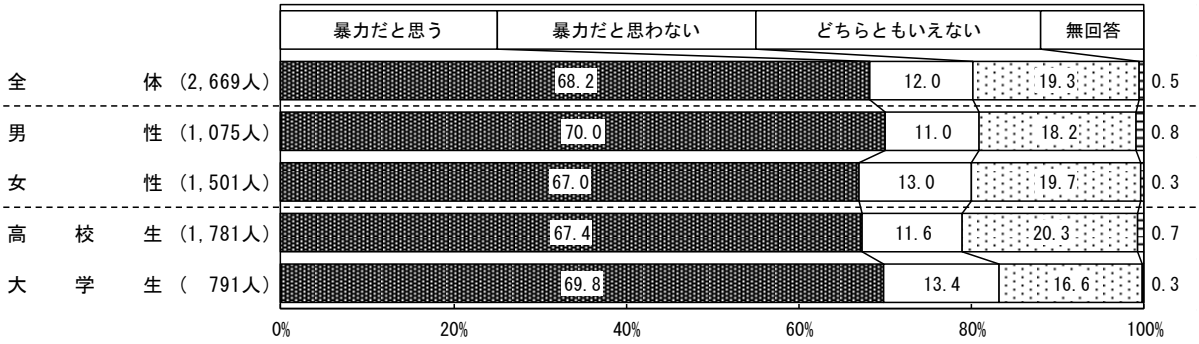
「LINE(ﾗｲﾝ)やFacebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)などのSNS(ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ)を執拗に監視したり制限する」を「暴力だと思う」と回答した割合は全ての属性で6割程度となっており、男性（60.0%）と女性（59.4%）、高校生（59.9%）と大学生（58.8%）の間に大きな差はみられません。(図表13)

５　常に自分の行動を報告させるように命じる

図表 14　暴力の認識「常に自分の行動を報告させるように命じる」（時系列）



図表 15　暴力の認識「常に自分の行動を報告させるように命じる」（男女別・年代別）



■全体の傾向

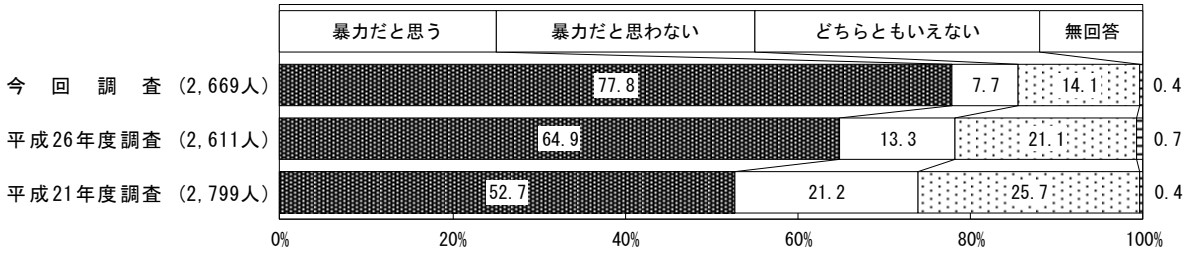
過去の調査結果と比較すると、「常に自分の行動を報告させるように命じる」を「暴力だと思う」と回答した割合は増加傾向にあり、令和元年度（68.2%）は平成 26 年度（63.5%）より 4.7 ポイント増加しています。（図表 14）

■男女別および年代別の傾向

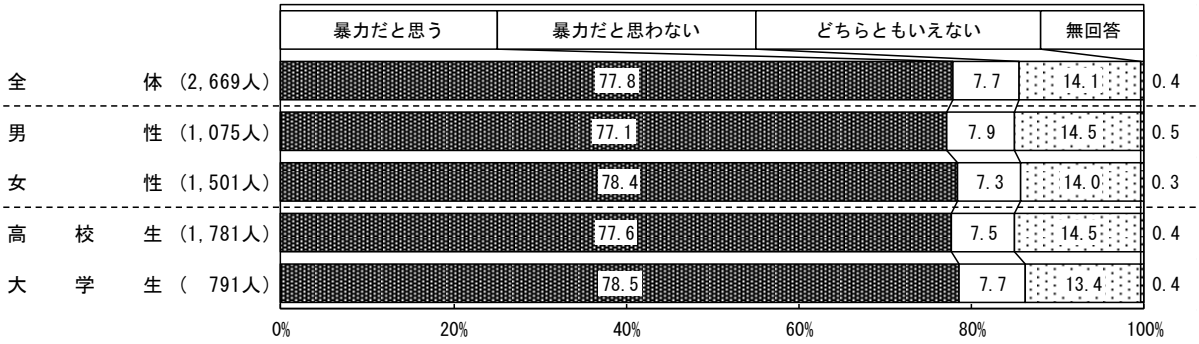
「常に自分の行動を報告させるように命じる」を「暴力だと思う」と回答した割合は、男性（70.0%）が女性（67.0%）より３ポイント高くなっています。一方、高校生（67.4%）と大学生（69.8%）の間に大きな差はみられません。（図表 15）

６　人前でバカにしたり、ののしったりする

図表 16　暴力の認識「人前でバカにしたり、ののしったりする」（時系列）



図表 17　暴力の認識「人前でバカにしたり、ののしったりする」（男女別・年代別）



■全体の傾向

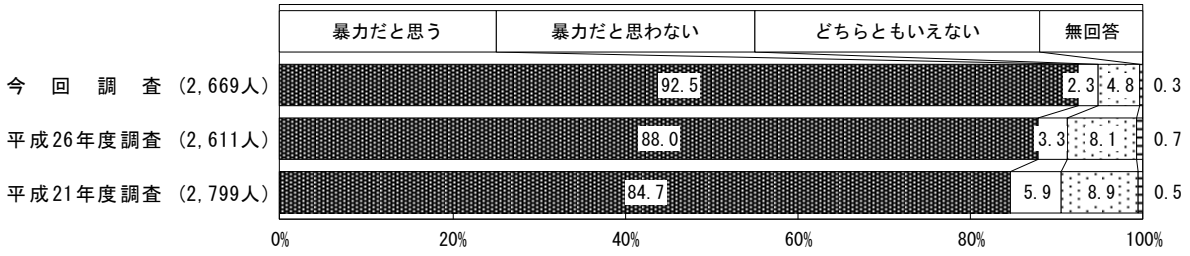
過去の調査結果と比較すると、「人前でバカにしたり、ののしったりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は増加傾向にあり、令和元年度（77.8%）は平成 26 年度（64.9%）より１割以上増加しています。（図表 16）

■男女別および年代別の傾向

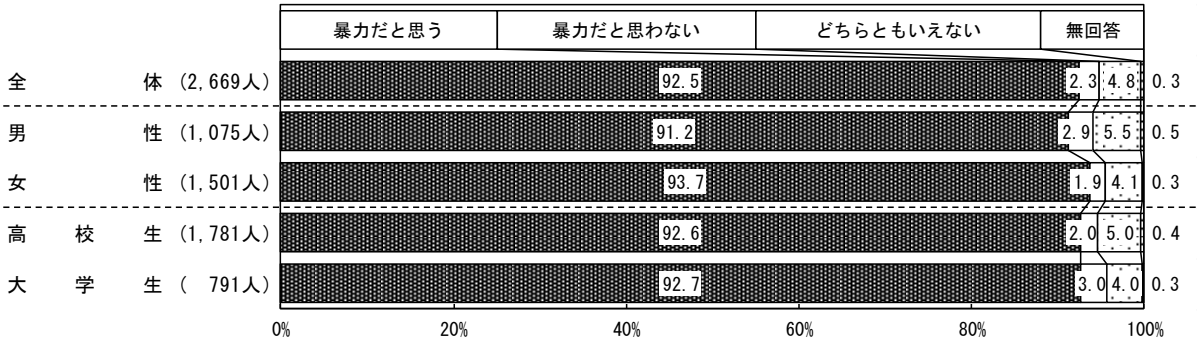
「人前でバカにしたり、ののしったりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は全ての属性で７割台となっており、男性（77.1%）と女性（78.4%）、高校生（77.6%）と大学生（78.5%）の間に大きな差はみられません。（図表 17）

7　思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする

図表 18　暴力の認識「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」（時系列）



図表 19　暴力の認識「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」（男女別・年代別）



■全体の傾向

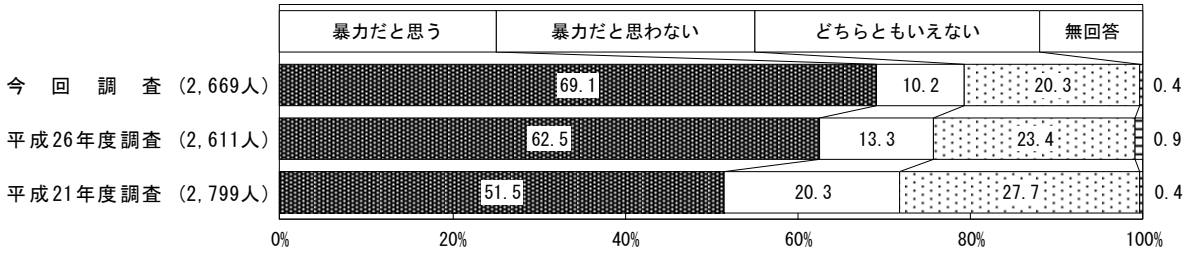
過去の調査結果と比較すると、「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は増加傾向にあり、令和元年度（92.5%）は平成 26 年度（88.0%）より 4.5 ポイント増加しています。（図表 18）

■男女別および年代別の傾向

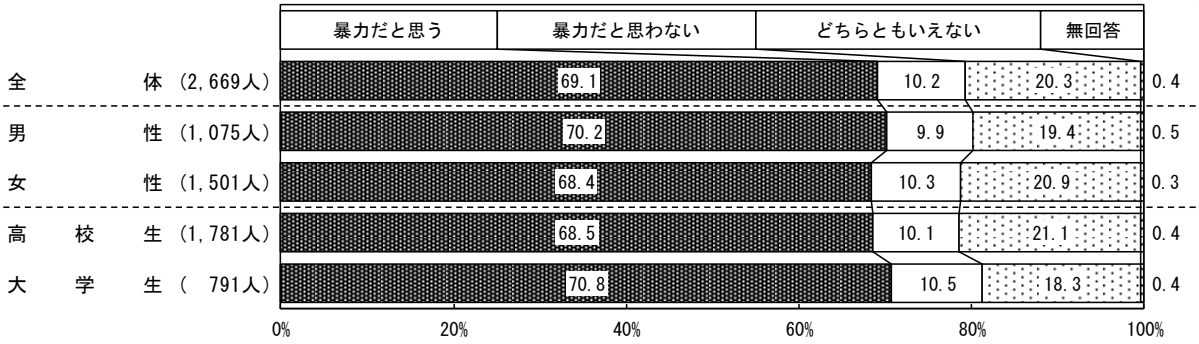
「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は全ての属性で９割を超えており、男性（91.2%）と女性（93.7%）、高校生（92.6%）と大学生（92.7%）の間に大きな差はみられません。（図表 19）

８　何を言っても、無視をする

図表 20　暴力の認識「何を言っても、無視をする」（時系列）



図表 21　暴力の認識「何を言っても、無視をする」（男女別・年代別）



■全体の傾向

過去の調査結果と比較すると、「何を言っても、無視をする」を「暴力だと思う」と回答した割合は増加傾向にあり、令和元年度（69.1%）は平成 26 年度（62.5%）より 6.6 ポイント増加しています。（図表 20）

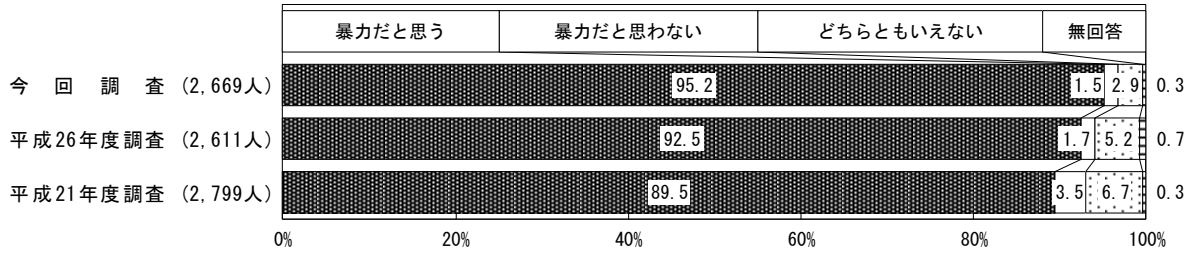
■男女別および年代別の傾向

「何を言っても、無視をする」を「暴力だと思う」と回答した割合は全ての属性で７割前後となっており、男性（70.2%）と女性（68.4%）、高校生（68.5%）と大学生（70.8%）の間に大きな差はみられません。（図表 21）

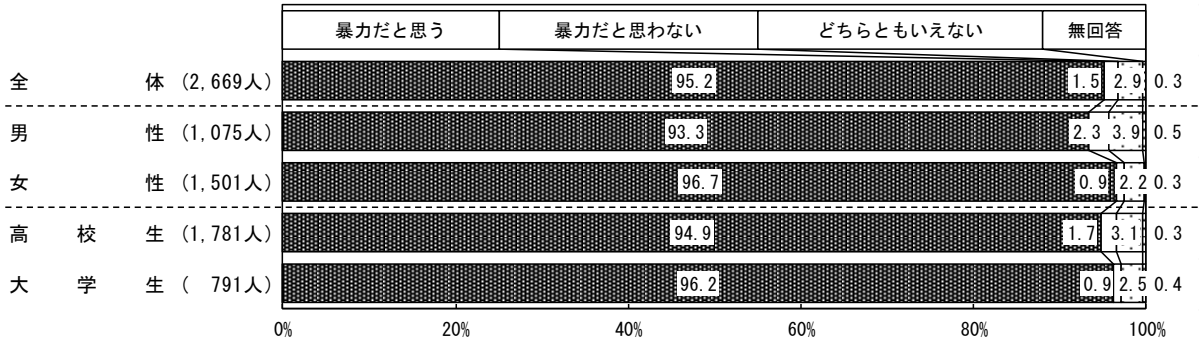
③性的暴力

９　性的な行為を無理やりする

図表 22　暴力の認識「性的な行為を無理やりする」（時系列）



図表 23　暴力の認識「性的な行為を無理やりする」（男女別・年代別）



■全体の傾向

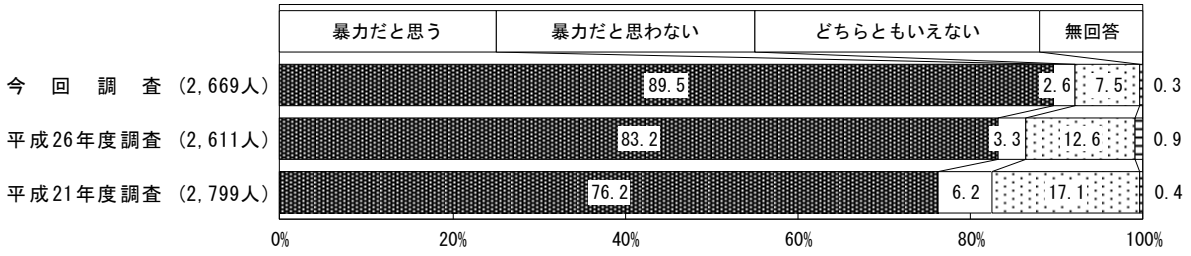
過去の調査結果と比較すると、「性的な行為を無理やりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は増加傾向にあり、令和元年度（95.2%）は平成 26 年度（92.5%）より 2.7 ポイント増加しています。（図表 22）

■男女別および年代別の傾向

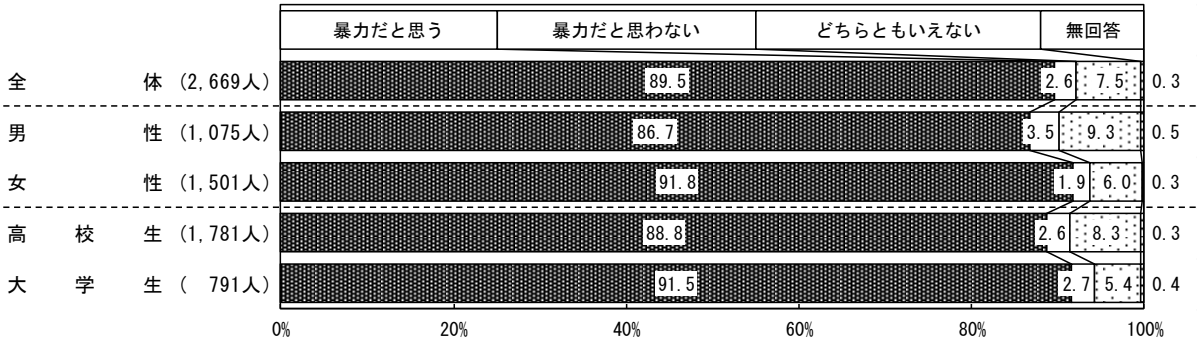
「性的な行為を無理やりする」を「暴力だと思う」と回答した割合は全ての属性で９割を超えており、女性（96.7%）は、男性（93.3%）より 3.4 ポイント高くなっています。一方、高校生（94.9%）と大学生（96.2%）の間に大きな差はみられません。（図表 23）

10　避妊に協力しない

図表 24　暴力の認識「避妊に協力しない」（時系列）



図表 25　暴力の認識「避妊に協力しない」（男女別・年代別）



■全体の傾向

過去の調査結果と比較すると、「避妊に協力しない」を「暴力だと思う」と回答した割合は増加傾向にあり、令和元年度（89.5%）は平成 26 年度（83.2%）より 6.3 ポイント増加しています。（図表 24）

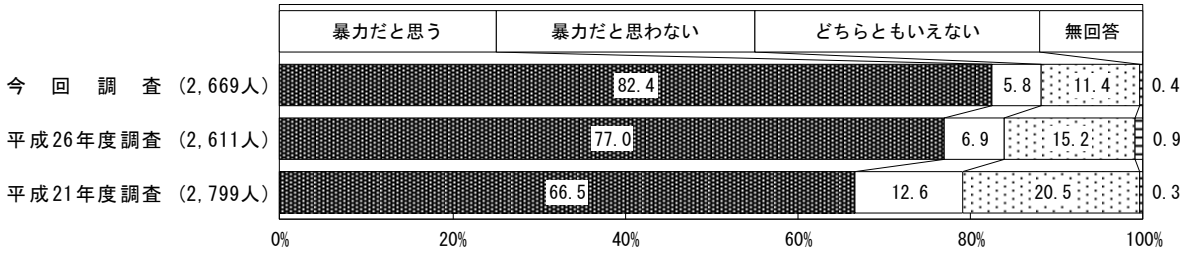
■男女別および年代別の傾向

「避妊に協力しない」を「暴力だと思う」と回答した割合は、女性（91.8%）で９割を超える一方、男性（86.7%）は 5.1 ポイント低くなっています。また、大学生（91.5%）も高校生（88.8%）をやや上回っています。（図表 25）

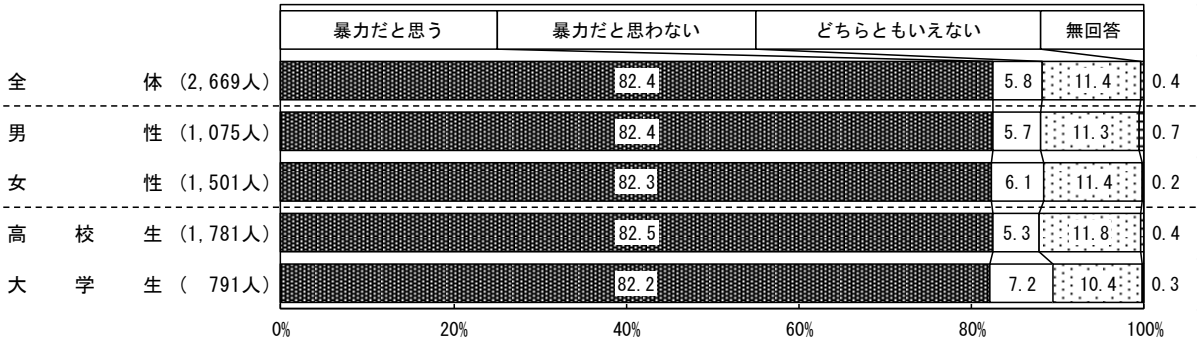
④経済的暴力

11　デート代やお金を無理やり出させる

図表 26　暴力の認識「デート代やお金を無理やり出させる」（時系列）



図表 27　暴力の認識「デート代やお金を無理やり出させる」（男女別・年代別）



■全体の傾向

過去の調査結果と比較すると、「デート代やお金を無理やり出させる」を「暴力だと思う」と回答した割合は増加傾向にあり、令和元年度（82.4%）は平成 26 年度（77.0%）より 5.4 ポイント増加しています。（図表 26）

■男女別および年代別の傾向

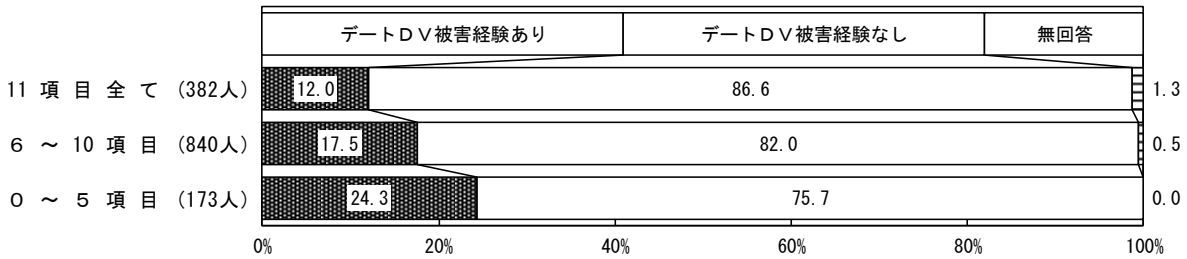
「デート代やお金を無理やり出させる」を「暴力だと思う」と回答した割合は全ての属性で８割台となっており、男性（82.4%）と女性（82.3%）、高校生（82.5%）と大学生（82.2%）の間に大きな差はみられません。（図表 27）

＜交際相手がいる（いた）人の暴力の認識状況とデートＤＶの被害（加害）経験との関係＞

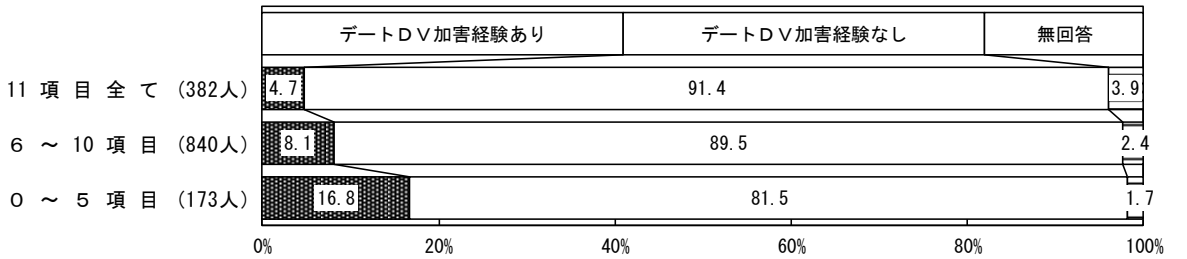
問２の暴力の認識に関する項目において、11 項目全てに「暴力だと思う」と回答した人を「11 項目全て」、６項目から 10 項目の人を「６～10 項目」、０項目から５項目の人を「０～５項目」として表しています。

問６（および問 11）のデートＤＶの被害（加害）経験に関する項目に、一つでも「受けたことがある（したことがある）」と回答した人を「デートＤＶ被害（加害）経験あり」、全くない人を「デートＤＶ被害（加害）経験なし」として表しています。

図表 28　デートＤＶの被害経験の有無（「暴力だと思う」項目数別）



図表 29　デートＤＶの加害経験の有無（「暴力だと思う」項目数別）



（注記）（問 5:P40）で交際相手がいる（いた）と回答した人（1,395 人）の暴力の認知状況（問 2:P18）とデートＤＶの被害経験（問 6: P41）、加害経験（問 11: P61）との関連性を調べるためクロス集計したものです。

■全体の傾向

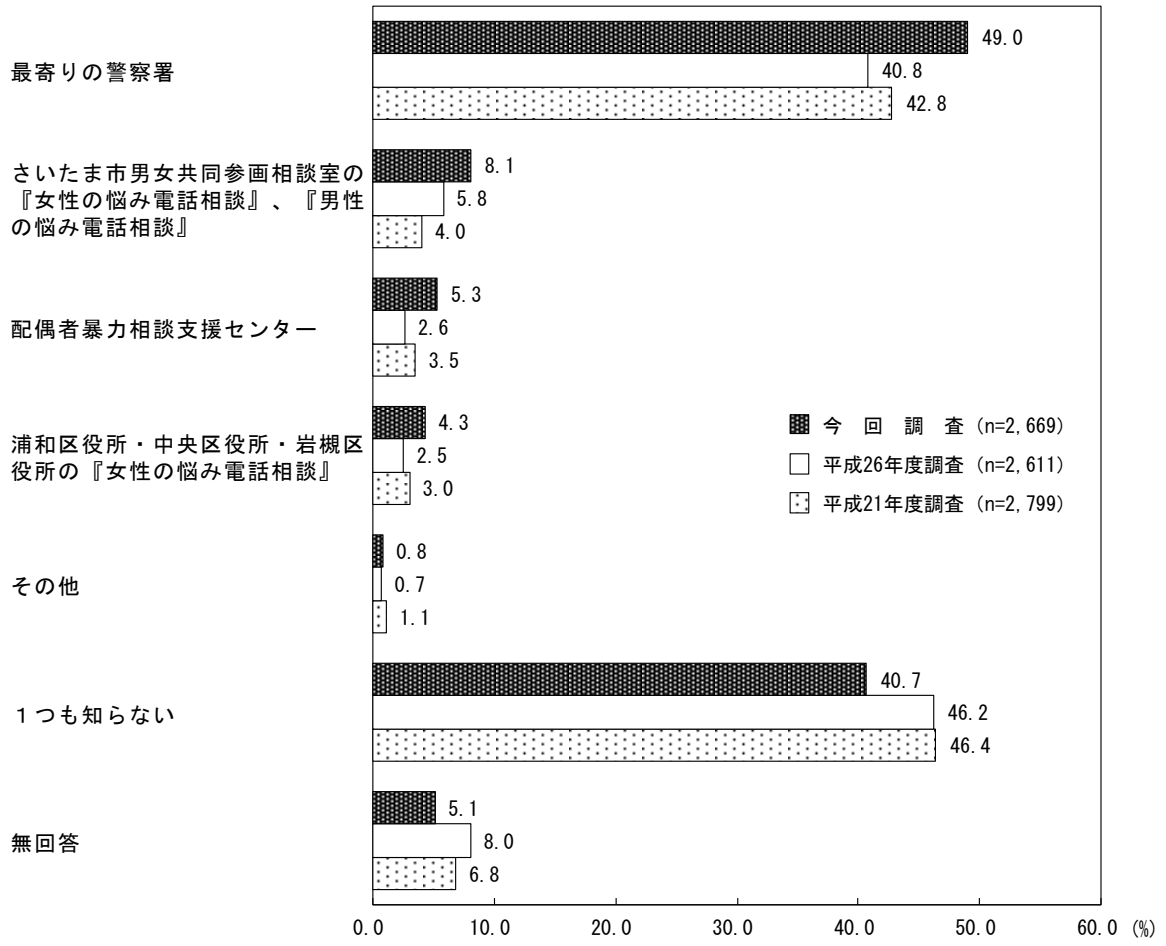
11 項目全てを「暴力だと思う」と回答した人のうち、デートＤＶの被害経験がある割合は 12.0%となっています。一方、６～10 項目（17.5%）、０～５項目（24.3%）は 11 項目全てに比べ、被害経験が最大約２倍高くなっています。

デートＤＶの加害経験についても、11 項目全てを「暴力だと思う」と回答した人（4.7%）に比べ、６～10 項目（8.1%）、０～５項目（16.8%）の割合は最大約 3.6 倍増加しています。加害経験は被害経験に比べ、暴力の認識の低さに伴う増加傾向がより強まっています。（図表 28．29）

問３　暴力に関する相談先の認知度

問３　交際相手からの暴力に関することを相談できる場所を、あなたは知っていますか。
（当てはまる番号すべてに○）

図表 30　暴力に関する相談先の認知度（時系列）

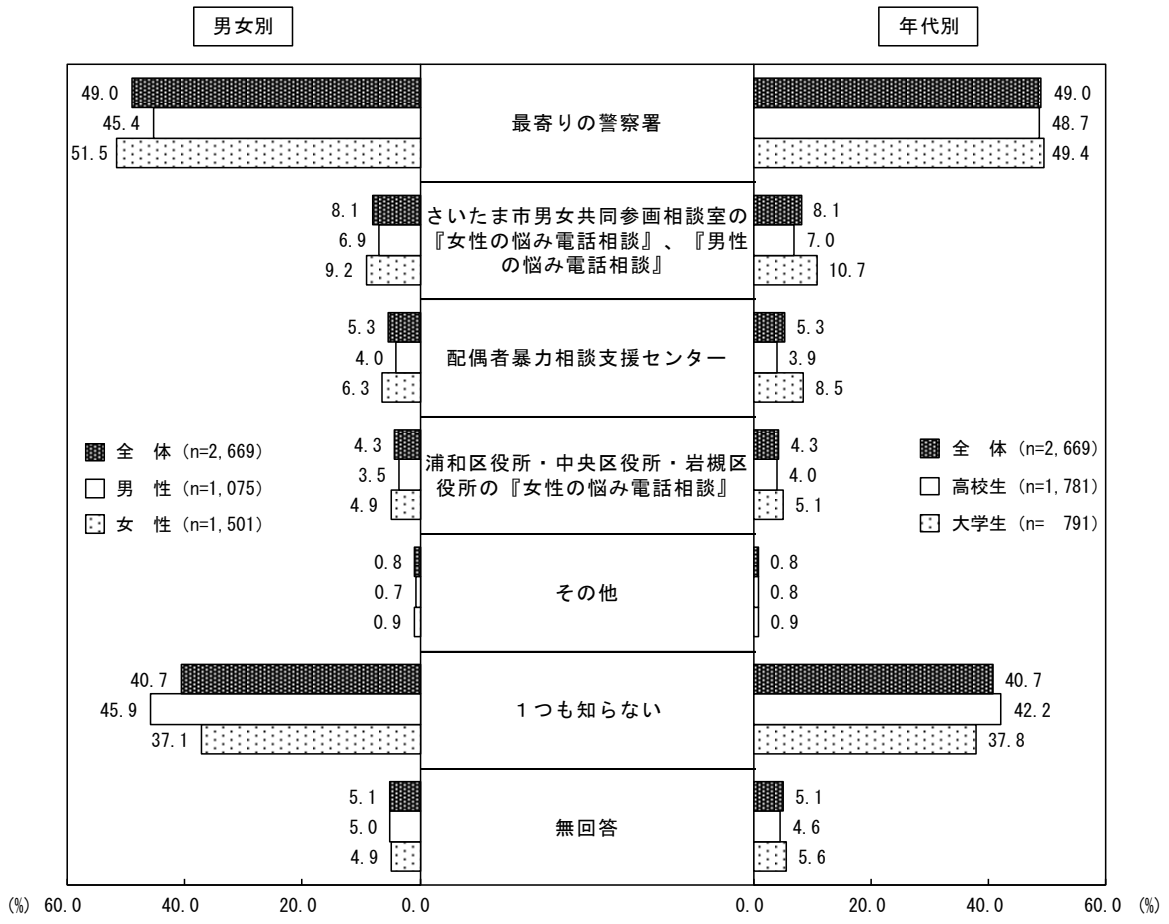


■全体の傾向

暴力に関する相談先の認知度は、「最寄りの警察署」が 49.0%と最も高くなっています。一方、「さいたま市男女共同参画相談室の『女性の悩み電話相談』、『男性の悩み電話相談』」（8.1%）、「配偶者暴力相談支援センター」（5.3%）、「浦和区役所・中央区役所・岩槻区役所の『女性の悩み電話相談』」（4.3%）は、いずれも１割未満にとどまっています。また、「１つも知らない」は全体の 40.7%を占めています。

過去の調査結果と比較すると、「１つも知らない」が平成 26 年度（46.2%）に比べ 5.5 ポイント減少する一方、４つの相談先の認知度はいずれも増加しています。特に「最寄りの警察署」は平成 26 年度（40.8%）に比べ 8.2 ポイント増加しています。（図表 30）

図表 31　暴力に関する相談先の認知度（男女別・年代列）



■男女別の傾向

男女別にみると、「最寄りの警察署」は女性（51.5%）が男性（45.4%）より 6.1 ポイント高く、他３つの相談先についても女性が男性をやや上回っています。一方、「１つも知らない」は男性（45.9%）が女性（37.1%）より 8.8 ポイント高くなっています。（図表 31）

■年代別の傾向

年代別にみると、「最寄りの警察署」の認知度は、高校生（48.7%）と大学生（49.4%）の間にほとんど差はありません。一方、「さいたま市男女共同参画相談室の『女性の悩み電話相談』、『男性の悩み電話相談』」、「配偶者暴力相談支援センター」は大学生の認知度が高校生を上回っていますが、いずれも１割前後となっています。また、「１つも知らない」は高校生（42.2%）が大学生（37.8%）より 4.4 ポイント高くなっています。（図表 31）

■「その他」の回答

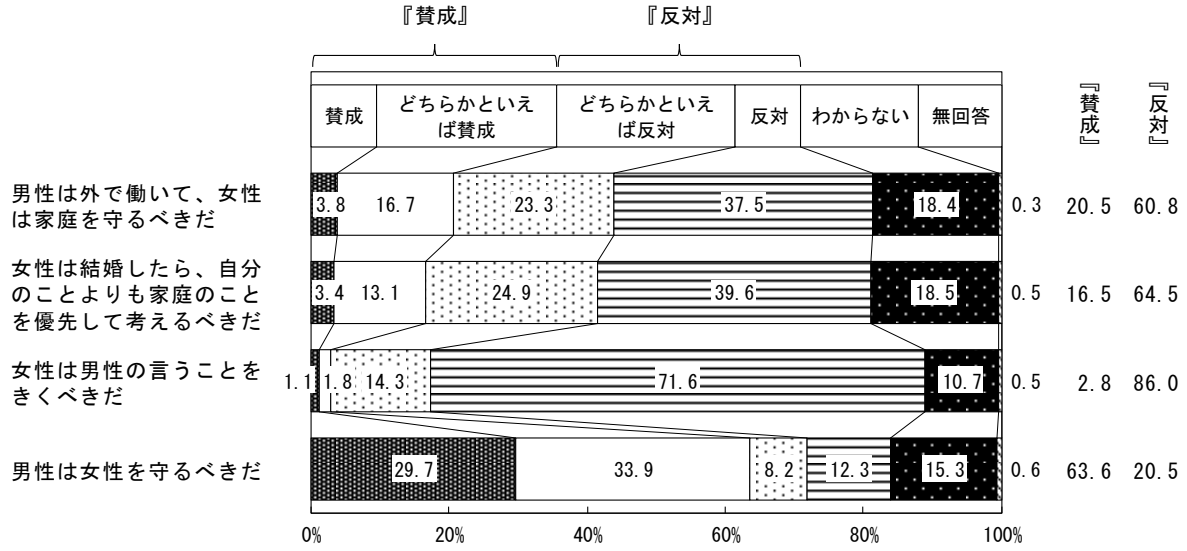
分類	主な内容	件数
学校関連	○ 大学の相談室（大学１年女性、大学院女性） ○ 学校、学校の相談室（高校２年女性） ○ 学校のピア・サポート（高校３年女性）	5
電話相談	○ チャイルドライン（高校１年女性） ○ さいたま市以外の電話相談（高校２年男性） ○ 電話で相談するコールセンター（高校１年女性）	4
相談機関	○ with you さいたま（高校１年男性） ○ なんでも相談室（大学１年女性） ○ 法テラス（大学３年男性）	3
その他	○ 知っているが今はわからない。カードやパンフレットを持っているので連絡はできます（大学４年女性）	1

２　男女平等に関する意識について

問４　男女平等に関する意識

問４　あなたは以下の項目についてどのように思いますか。
それぞれの項目について、最も当てはまると思うところに○をつけてください。

図表 32　男女平等に関する意識（n=2,669）

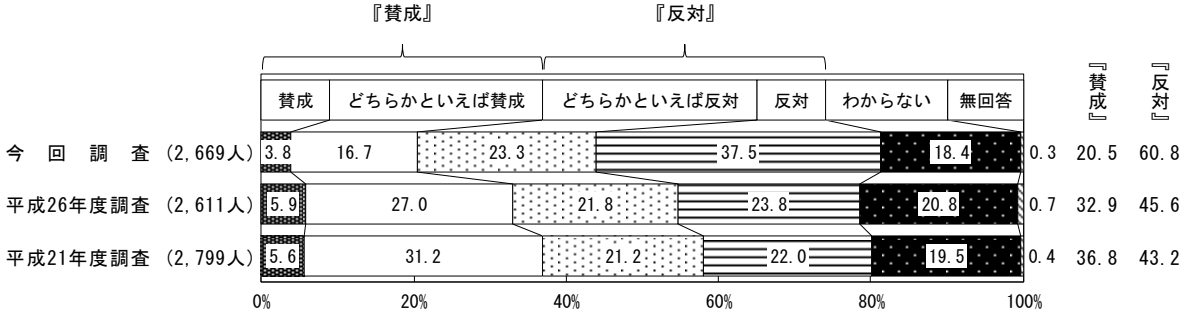


■全体の傾向

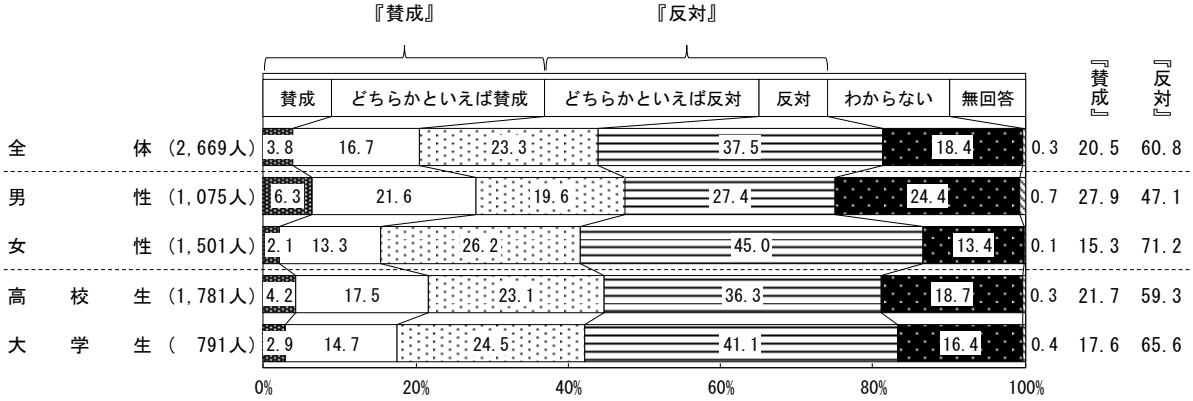
男女平等に関する意識を問う４項目の中で、『反対』（「反対」「どちらかといえば反対」の合計）は、「女性は男性の言うことをきくべきだ」が 86.0%で最も高くなっています。また、「女性は結婚したら、自分のことよりも家庭のことを優先して考えるべきだ」(64.5%)、「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」（60.8%）も『反対』が過半数を占めています。一方、「男性は女性を守るべきだ」は『賛成』（「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計）が 63.6%を占め、『反対』(20.5%)を大きく上回っています。（図表 32）

1　男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ

図表 33　男女平等に関する意識
「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」（時系列）



図表 34　男女平等に関する意識
「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」（男女別・年代別）



■全体の傾向

過去の調査結果と比較すると、「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」に『賛成』する割合は減少傾向にあり、令和元年度（20.5%）は平成 26 年度（32.9%）より 12.4 ポイント減少しています。（図表 33）

■男女別および年代別の傾向

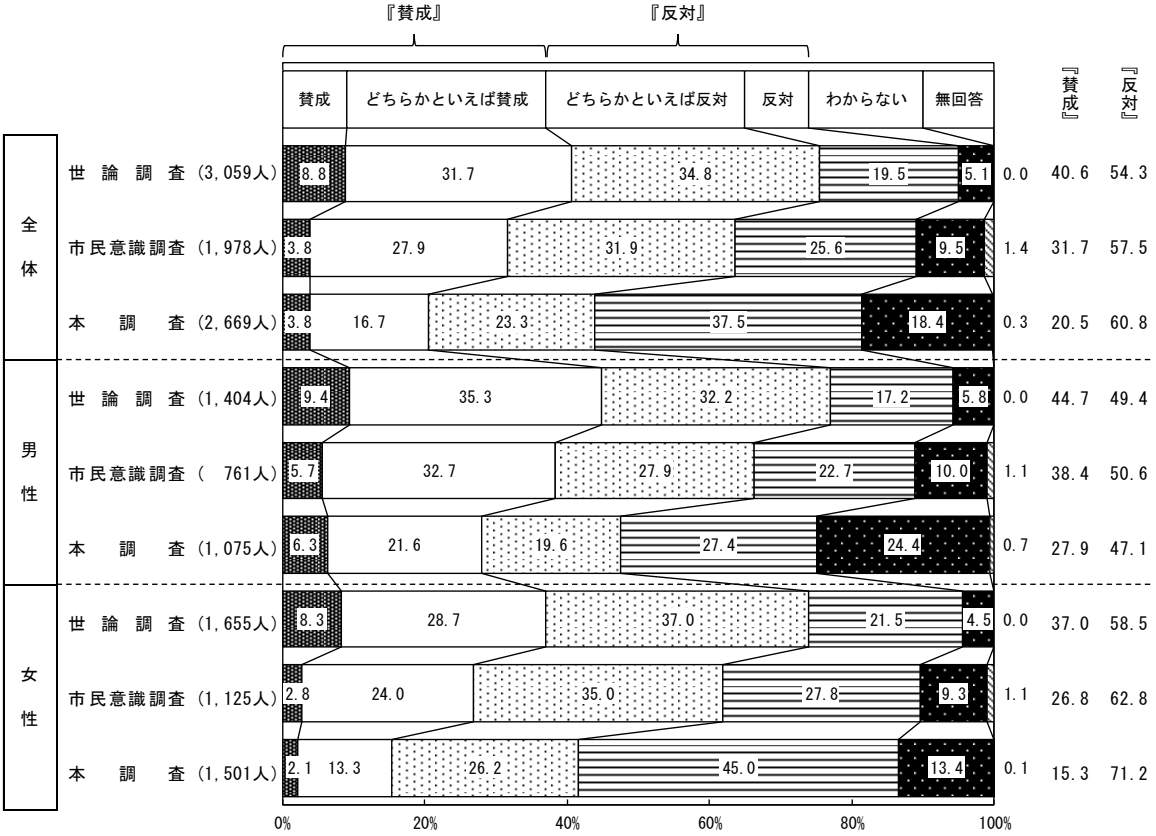
男女別にみると、女性は「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」に『反対』（71.2%）が７割を超え、『賛成』（15.3%）を大きく上回っています。一方、男性は『反対』（47.1%）が『賛成』（27.9%）より高いものの、差は２割程度となっています。

年代別にみると、「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」に『賛成』する割合は高校生（21.7%）が大学生（17.6%）を 4.1 ポイント、『反対』は大学生（65.6%）が高校生（59.3%）を 6.3 ポイント上回っています。（図表 34）

＜世論調査及び市民意識調査との比較＞

「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」という考え方について、内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」およびさいたま市の「男女共同参画に関する市民意識調査」の結果と比較しました。

図表 35　「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」という考え方



※世論調査では、「夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである」
※市民意識調査では、「男は仕事、女は家庭」

資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年度）」
資料：さいたま市「男女共同参画に関する市民意識調査（平成 28 年度）」

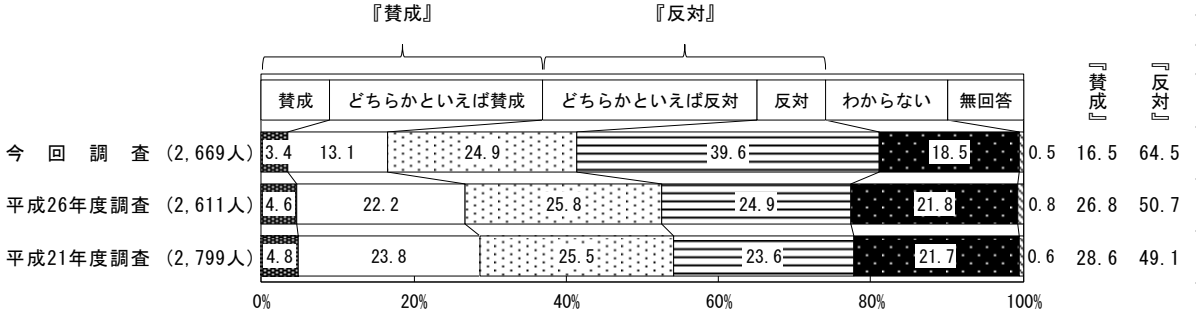
■全体の傾向および男女別の傾向

「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」に『賛成』する割合は、世論調査（40.6%）に比べ本調査（20.5%）はほぼ半数であり、市民意識調査（31.7%）との比較でも１割以上低くなっています。一方、『反対』は本調査（60.8%）が世論調査（54.3%）、市民意識調査（57.5%）を上回り、最も高くなっています。

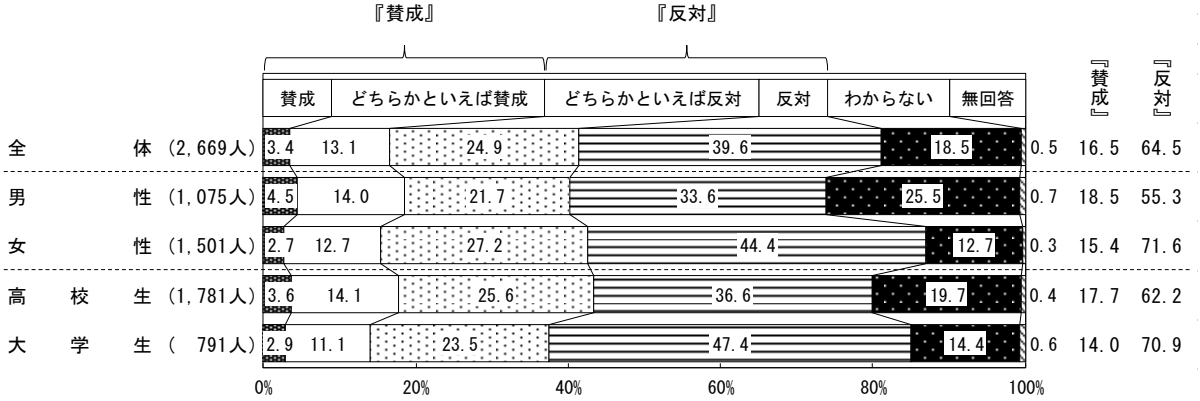
男女別にみると、３調査とも女性の方が男性より『賛成』が低く、『反対』が高くなっています。また、『賛成』する割合は男女とも本調査が世論調査、市民意識調査より低くなっています。
一方、本調査では『反対』する女性（71.2%）が７割を超え、世論調査（58.5%）、市民意識調査（62.8%）を上回るのに対し、男性は本調査（47.1%）より世論調査（49.4%）、市民意識調査（50.6%）の方が高くなっています。これは本調査における男性の「わからない」（24.4%）割合の高さが影響していると考えられます。（図表 35）

2　女性は結婚したら、自分のことよりも家庭のことを優先して考えるべきだ

図表 36　男女平等に関する意識
「女性は結婚したら、自分のことよりも家庭のことを優先して考えるべきだ」（時系列）



図表 37　男女平等に関する意識
「女性は結婚したら、自分のことよりも家庭のことを優先して考えるべきだ」（男女別・年代別）



■全体の傾向

過去の調査結果と比較すると、「女性は結婚したら、自分のことよりも家庭のことを優先して考えるべきだ」に『賛成』する割合は減少傾向にあり、令和元年度（16.5%）は平成 26 年度（26.8%）より 10.3 ポイント減少しています。（図表 36）

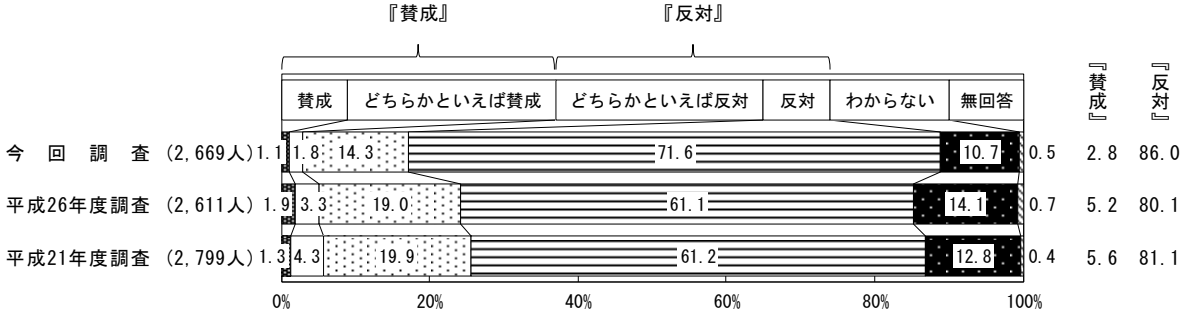
■男女別および年代別の傾向

男女別にみると、女性は「女性は結婚したら、自分のことよりも家庭のことを優先して考えるべきだ」に『反対』（71.6%）が７割を超え、『賛成』（15.4%）を大きく上回っています。一方、男性は『反対』（55.3%）が女性より 16.3 ポイント低くなっています。

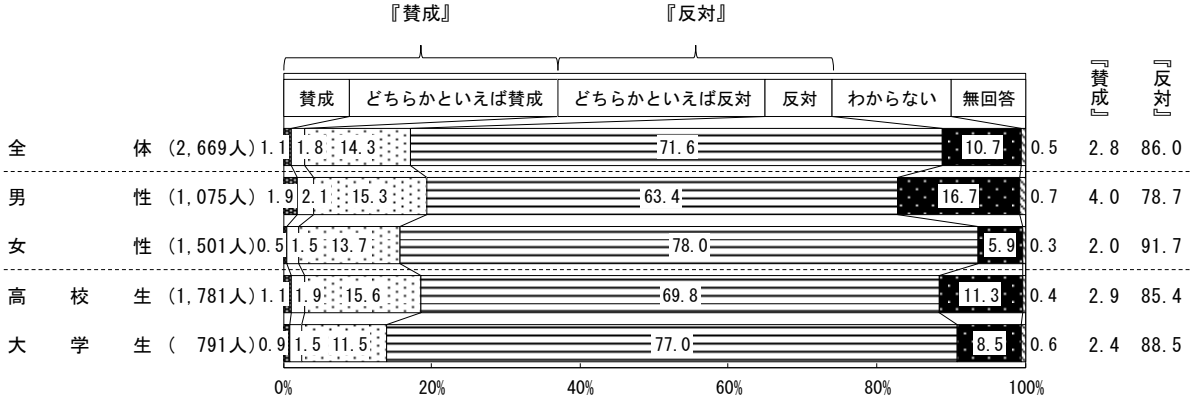
年代別にみると、「女性は結婚したら、自分のことよりも家庭のことを優先して考えるべきだ」に『賛成』する割合は高校生（17.7%）が大学生（14.0%）を 3.7 ポイント、『反対』は大学生（70.9%）が高校生（62.2%）を 8.7 ポイント上回っています。（図表 37）

３　女性は男性の言うことをきくべきだ

図表 38　男女平等に関する意識
「女性は男性の言うことをきくべきだ」（時系列）



図表 39　男女平等に関する意識
「女性は男性の言うことをきくべきだ」（男女別・年代別）



■全体の傾向

過去の調査結果と比較すると、「女性は男性の言うことをきくべきだ」に『反対』する割合は平成 21 年度以降８割を超えています。また、『賛成』する割合も令和元年度（2.9%）は平成 26 年度（5.2%）より 2.4 ポイント減少しています。（図表 38）

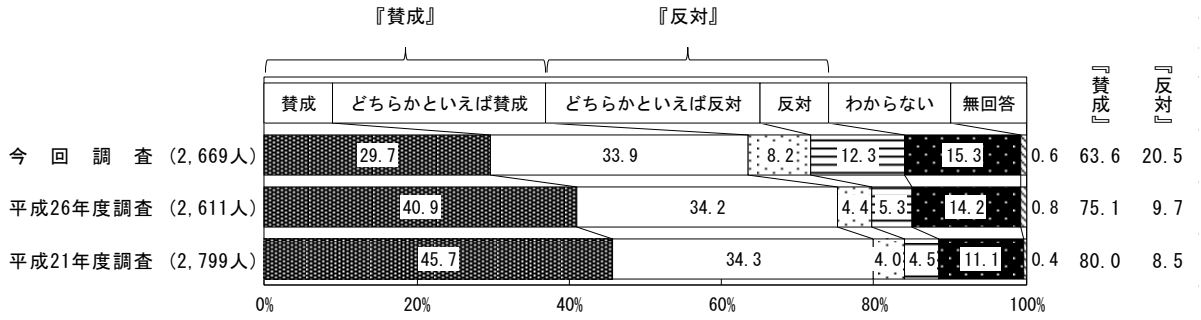
■男女別および年代別の傾向

男女別にみると、女性は「女性は男性の言うことをきくべきだ」に『反対』（91.7%）が９割を超えるのに対し、男性（78.7%）は女性より 13 ポイント低くなっています。

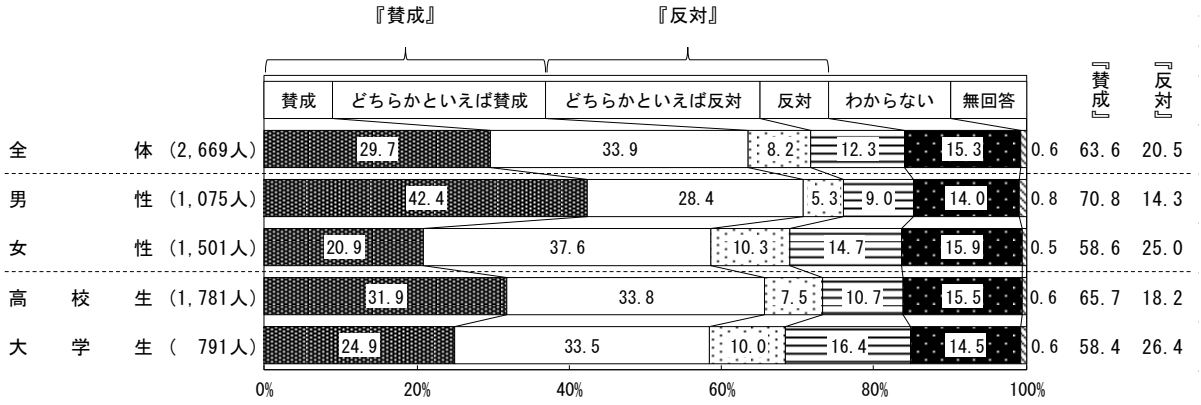
年代別にみると、「女性は男性の言うことをきくべきだ」に『反対』する割合は高校生（85.4%）、大学生（88.5%）ともに８割を超えています。（図表 39）

4　男性は女性を守るべきだ

図表 40　男女平等に関する意識
「男性は女性を守るべきだ」（時系列）



図表 41　男女平等に関する意識
「男性は女性を守るべきだ」（男女別・年代別）



■全体の傾向

過去の調査結果と比較すると、「男性は女性を守るべきだ」に『賛成』する割合は減少傾向にあり、令和元年度（63.6%）は平成 26 年度（75.1%）より 11.5 ポイント減少しています。一方、『反対』は平成 26 年度のおよそ倍（9.7%→20.5%）となっていますが、『賛成』の約３分の１にとどまっています。（図表 40）

■男女別および年代別の傾向

男女別にみると、男性は「男性は女性を守るべきだ」に『賛成』（70.8%）する割合が７割を超え、『反対』（14.3%）を大きく上回っています。また、女性も『賛成』（58.6%）が過半数を占めており、『反対』（25.0%）の倍以上となっています。

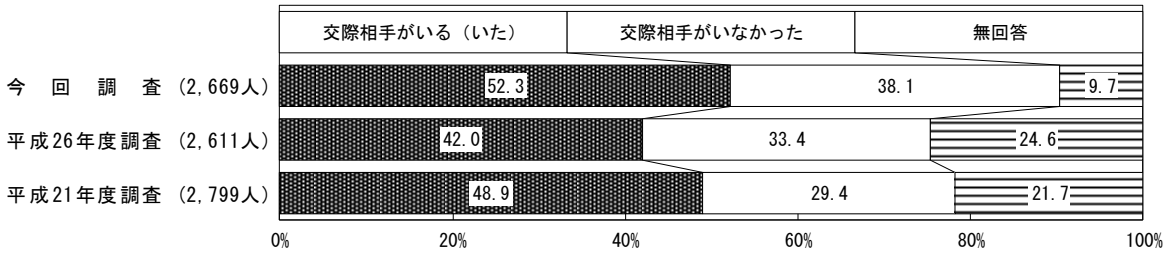
年代別にみると、「男性は女性を守るべきだ」に『賛成』する割合は高校生（65.7%）が大学生（58.4%）を 7.3 ポイント、『反対』は大学生（26.4%）が高校生（18.2%）を 8.2 ポイント上回っています。（図表 41）

３　デートＤＶの実態について

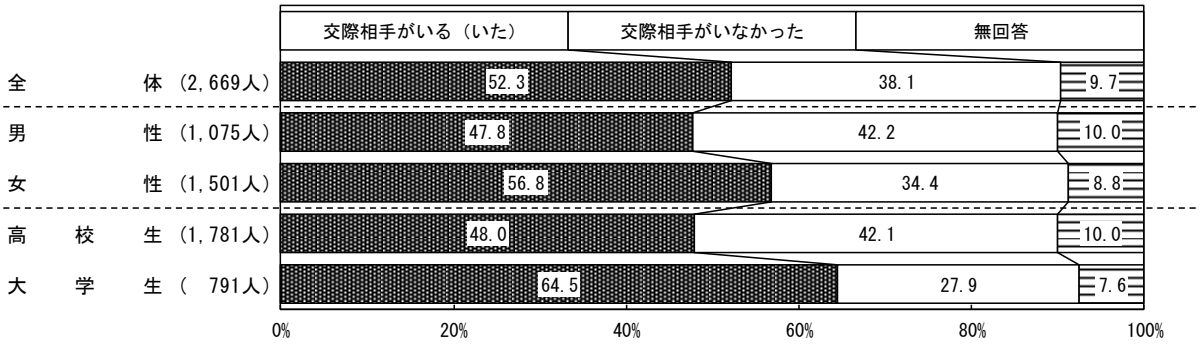
問５　交際相手の有無

問５　あなたには、これまでに交際した相手がいましたか。（○は１つだけ）

図表 42　交際相手の有無（時系列）



図表 43　交際相手の有無（男女別・年代別）



■全体の傾向

交際相手の有無について、「交際相手がいる（いた）」と回答した割合は 52.3%、「交際相手がいなかった」は 38.1%となっています。

過去の調査結果と比較すると、「交際相手がいる（いた）」は平成 26 年度（42.0%）に比べ 10.3 ポイント増加しています。（図表 42）

■男女別および年代別の傾向

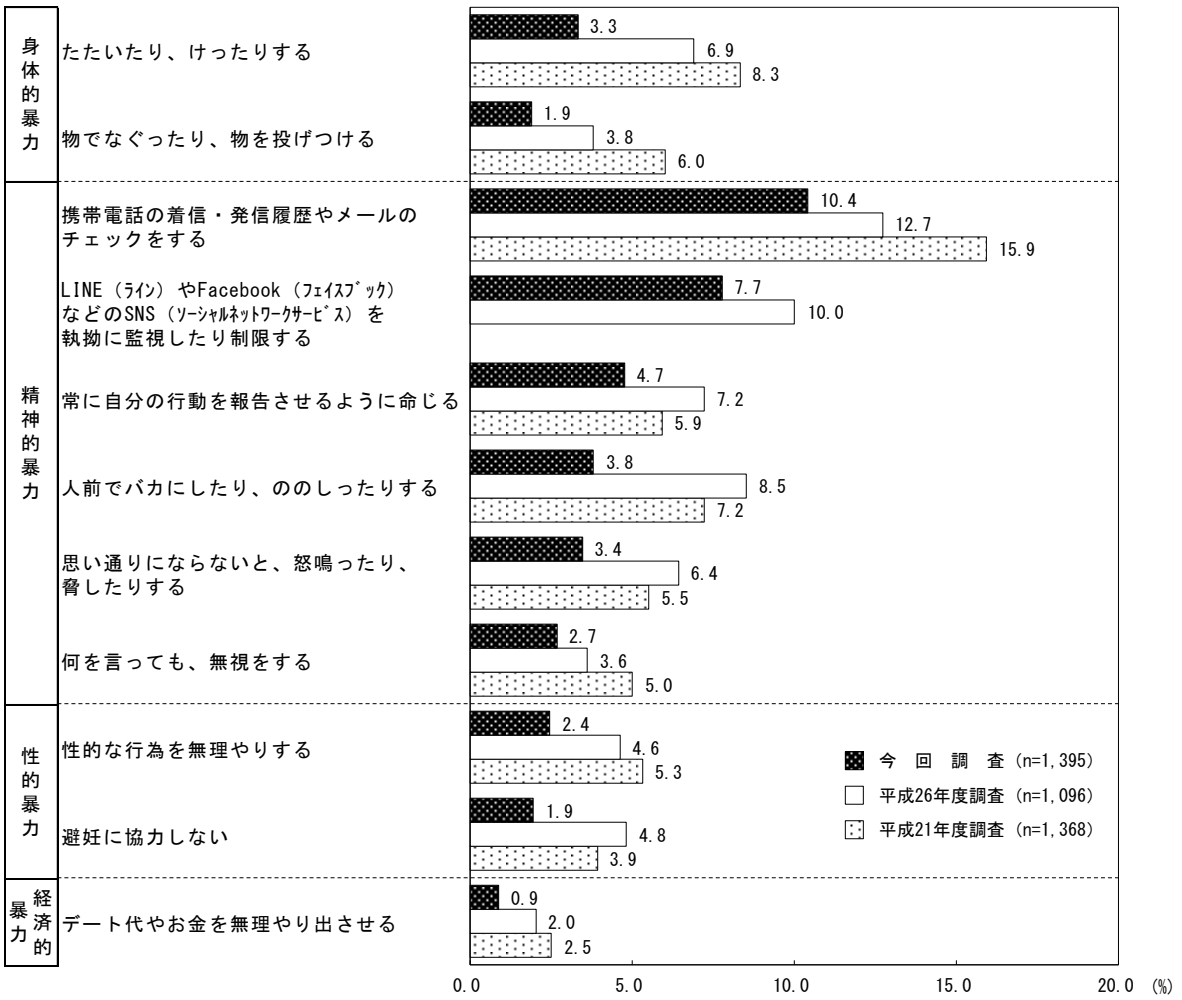
男女別にみると、「交際相手がいる（いた）」割合は、女性（56.8%）が過半数を占めるのに対し、男性（47.8%）は 1 割程度低くなっています。

年代別にみると、「交際相手がいる（いた）」割合は、大学生（64.5%）が高校生（48.0%）を 16.5 ポイント上回っています。（図表 43）

問６　交際相手からの暴力（デートＤＶ）の被害経験

問６　あなたはこれまでに以下のようなことを、交際相手から受けたことがありますか。
それぞれの項目について当てはまる方に○をつけてください。

図表 44　交際相手からの暴力（デートＤＶ）の被害経験（時系列）



（注記）平成 21 年度調査では、「LINE（ﾗｲﾝ）や Facebook（ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ）などの SNS（ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ）を執拗に監視したり制限する」の設問項目なし

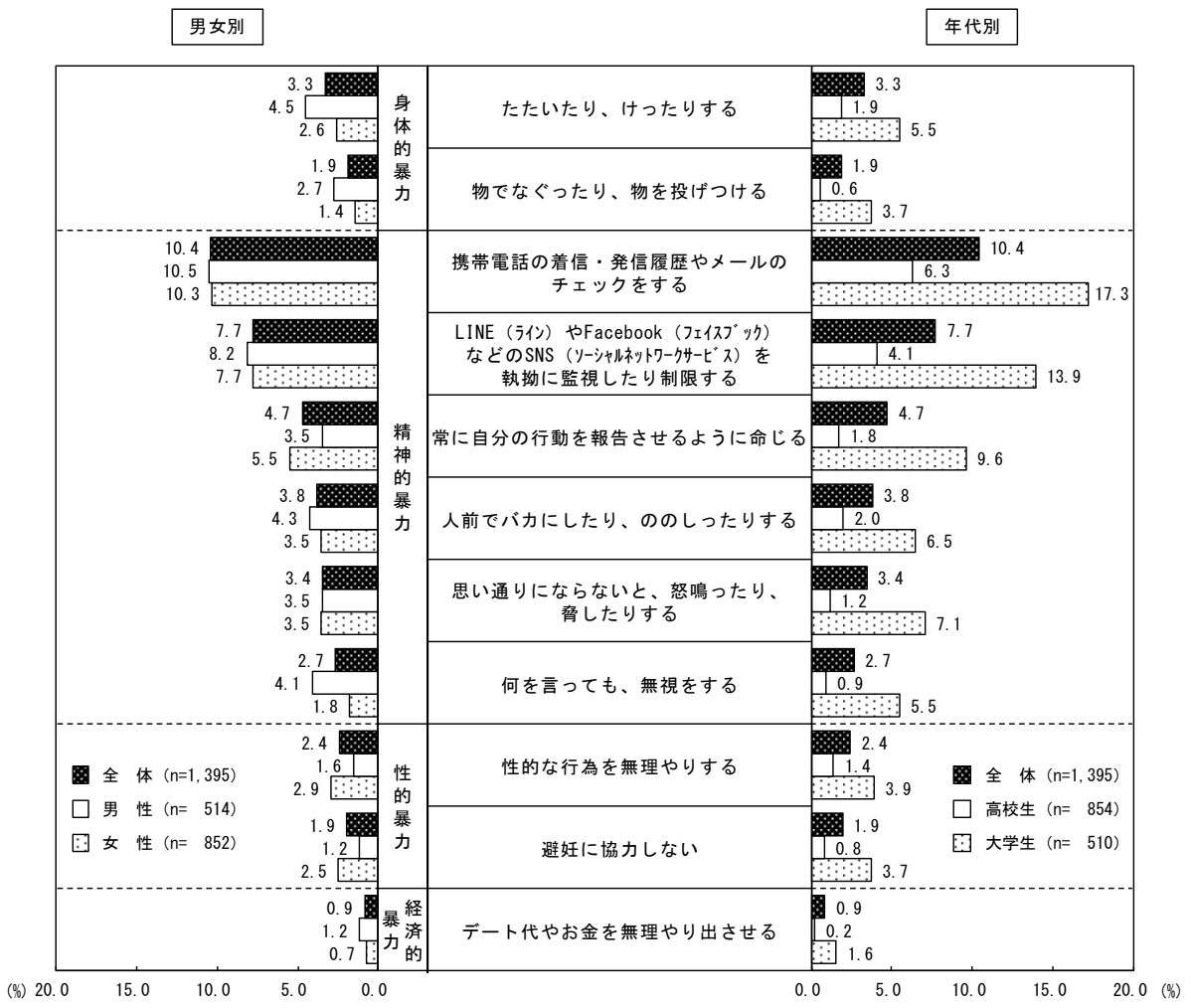
■全体の傾向

交際相手からのデートＤＶの被害経験は、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」が 10.4％で最も多く、次いで「LINE(ﾗｲﾝ)や Facebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)などの SNS(ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ)を執拗に監視したり制限する」(7.7％)、「常に自分の行動を報告させるように命じる」(4.7％)の順となっており、上位３項目はいずれも精神的暴力となっています。

過去の調査結果と比較すると、全ての項目で平成 26 年度を下回っており、「人前でバカにしたり、ののしったりする」(8.5％→3.8％)、「たたいたり、けったりする」(6.9％→3.3％)、「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」(6.4％→3.4％) は３ポイント以上減少しています。

（図表 44）

図表 45　交際相手からの暴力（デートＤＶ）の被害経験（男女別・年代列）



■男女別の傾向

男女別にみると、身体的暴力と経済的暴力については男性、性的暴力については女性の割合が高くなっています。精神的暴力については「常に自分の行動を報告させるように命じる」（男性 3.5%、女性 5.5%）、「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」（男女とも 3.5%）以外の項目で、男性が女性を上回っています。（図表 45）

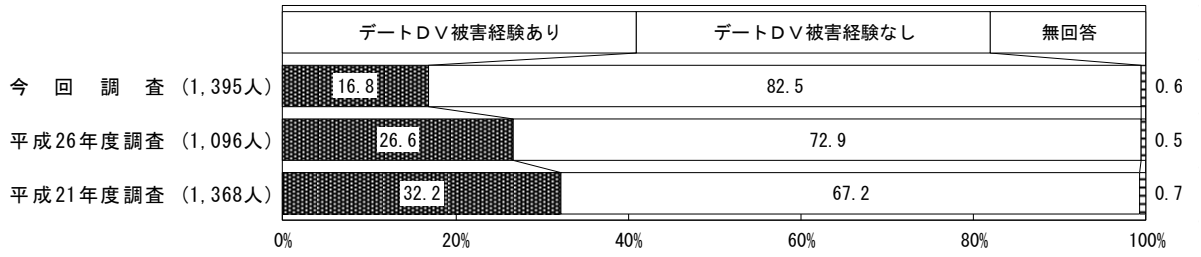
■年代別の傾向

年代別にみると、全ての項目で大学生が高校生を上回っています。特に「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（高校生 6.3%、大学生 17.3%）、「LINE（ﾗｲﾝ）や Facebook（ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ）などの SNS（ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ）を執拗に監視したり制限する」（高校生 4.1%、大学生 13.9%）は、大学生が高校生より 1 割前後高くなっています。（図表 45）

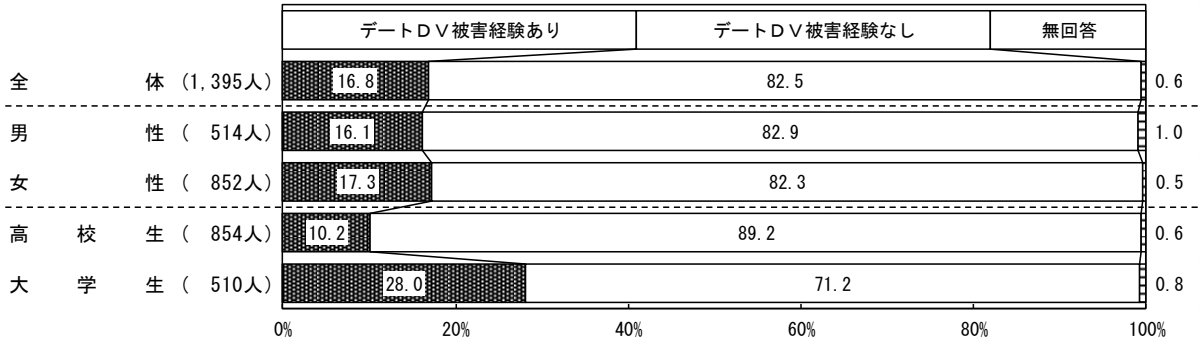
＜デートＤＶの被害経験について＞

問６のデートＤＶの被害経験に関する項目に一つでも「受けたことがある」と回答した人を「デートＤＶ被害経験あり」、全くない人を「デートＤＶ被害経験なし」として表しています。

図表 46　デートＤＶの被害経験の有無（時系列）



図表 47　デートＤＶの被害経験の有無（男女別・年代列）



■全体の傾向

交際相手からのデートＤＶの被害経験について、「デートＤＶ被害経験あり」は 16.8%、「デートＤＶ被害経験なし」は 82.5%となっています。

過去の調査結果と比較すると、「デートＤＶ被害経験あり」は減少傾向にあり、令和元年度は平成 26 年度（26.6%）より 9.8 ポイント減少しています。（図表 46）

■男女別および年代別の傾向

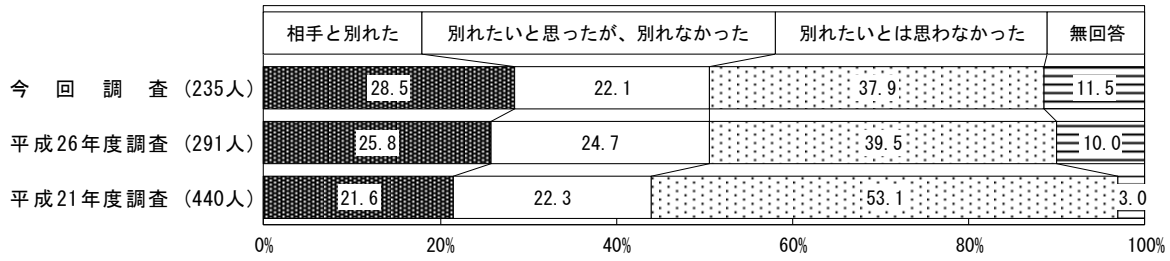
男女別にみると、「デートＤＶ被害経験あり」は男性（16.1%）、女性（17.3%）ともに１割台であり、大きな差はみられません。

年代別にみると、大学生は「デートＤＶ被害経験あり」（28.0%）が３割弱なのに対し、高校生（10.2%）はその半数以下となっています。（図表 47）

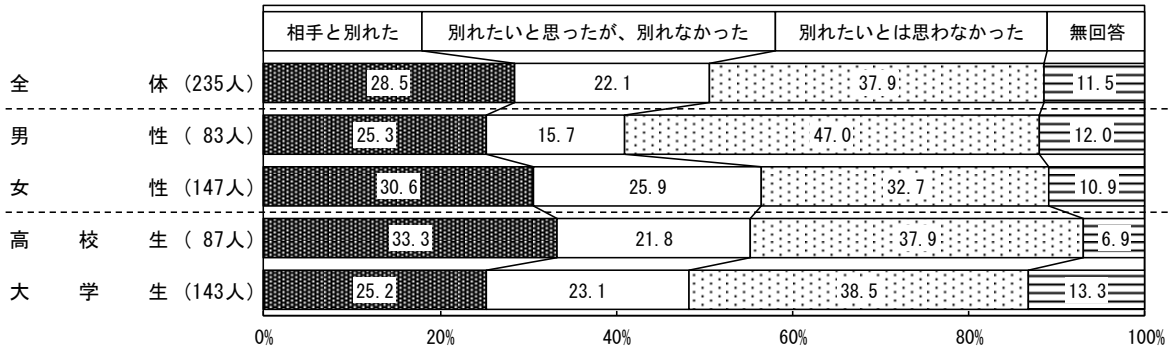
問７　被害を受けた後の交際

問７　問６で「受けたことがある」と回答した方にお聞きします。
あなたは交際相手からそのような行為を受けた時、どうしましたか。当てはまる番号に〇をつけてください。（〇は１つだけ）

図表 48　被害を受けた後の交際（時系列）



図表 49　被害を受けた後の交際（男女別・年代列）



■全体の傾向

被害を「受けたことがある」と回答した人（235 人）にその後の交際について聞いたところ、「別れたいとは思わなかった」が 37.9％で最も多く、次いで「相手と別れた」（28.5％）、「別れたいと思ったが、別れなかった」（22.1％）の順となっています。

過去の調査結果と比較すると、「相手と別れた」が増加、「別れたいとは思わなかった」が減少する傾向にあり、前者は平成 26 年度（25.8％）に比べ 2.7 ポイント増加しています。（図表 48）

■男女別の傾向および年代別の傾向

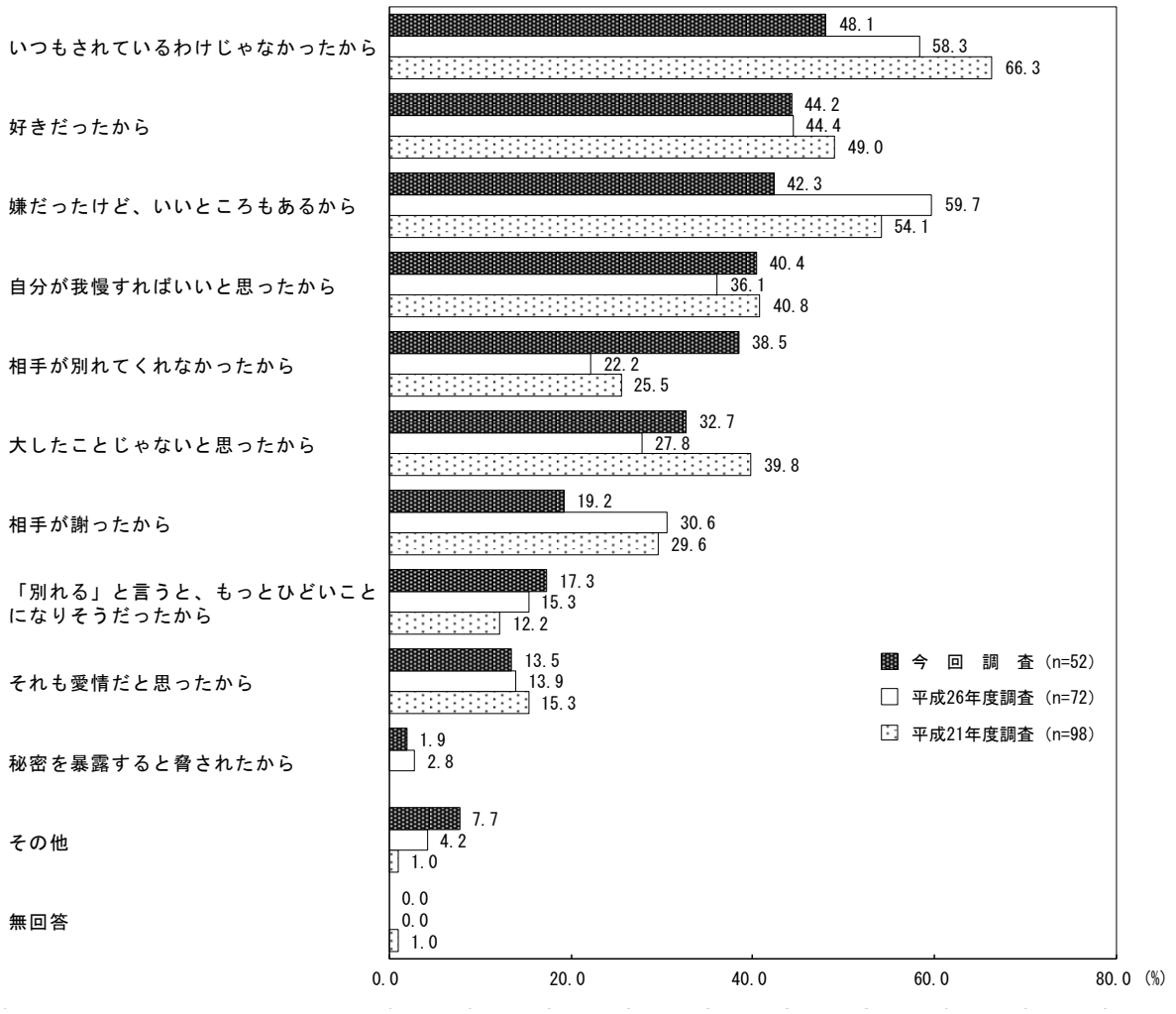
男女別にみると、女性は「相手と別れた」（30.6％）と「別れたいとは思わなかった」（32.7％）がそれぞれ約３割となっています。一方、男性は「別れたいとは思わなかった」（47.0％）が半数近くを占めています。

年代別にみると、「相手と別れた」は高校生（33.3％）が大学生（25.2％）を 8.1 ポイント上回っています。（図表 49）

問７－１　別れなかった理由

問７－１　問７で「別れたいと思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。
あなたが交際相手と別れなかった理由は何ですか。（当てはまる番号すべてに○）

図表 50　別れなかった理由（時系列）



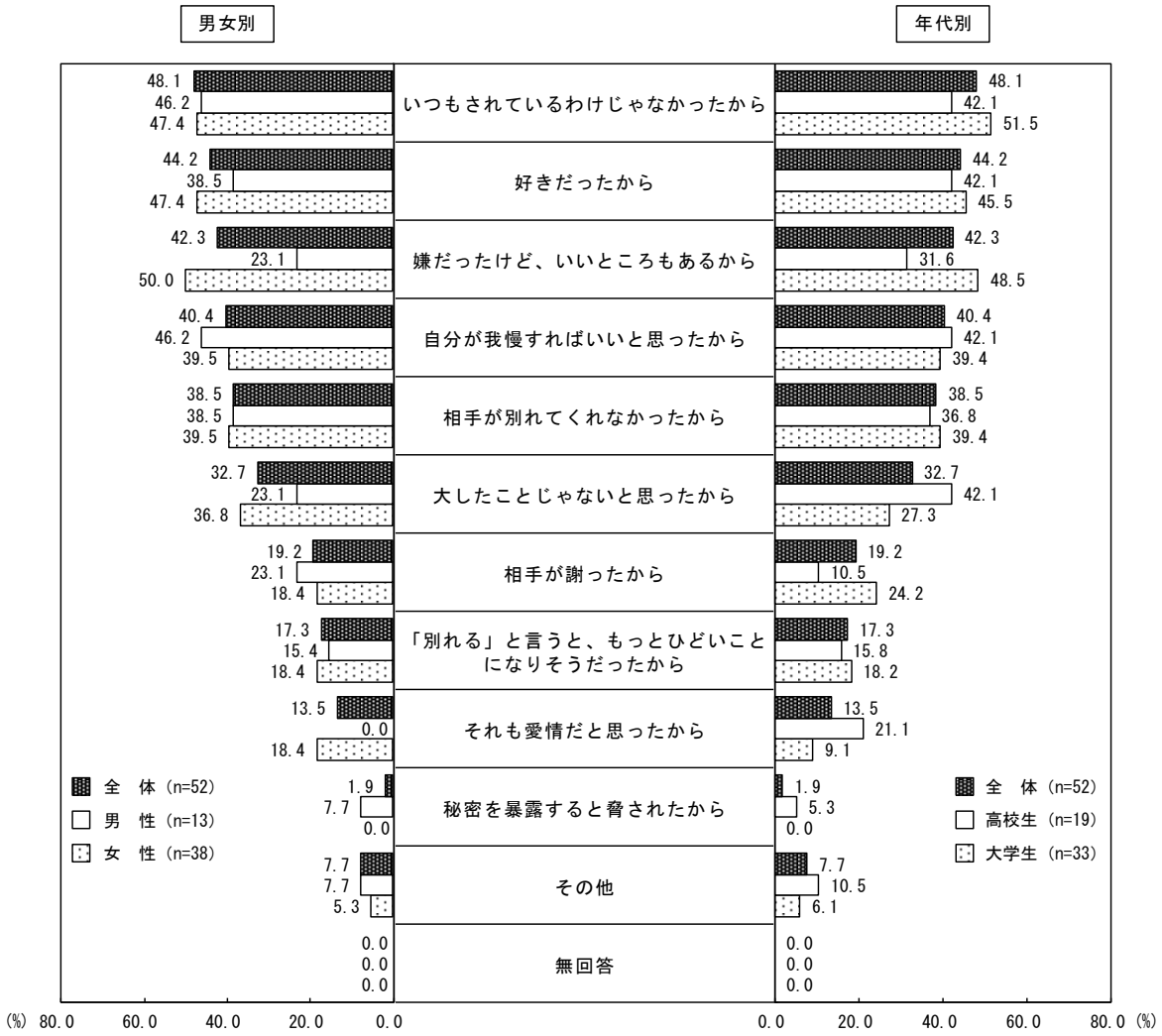
（注記）平成 21 年度調査では、「秘密を暴露すると脅されたから」の設問項目なし

■全体の傾向

被害を受けた後、「別れたいと思ったが、別れなかった」と回答した人（52 人）にその理由を聞いたところ、「いつもされているわけじゃなかったから」が 48.1%で最も多く、次いで「好きだったから」（44.2%）、「嫌だったけど、いいところもあるから」（42.3%）の順となっています。

過去の調査結果と比較すると、平成 26 年度に比べ「嫌だったけど、いいところもあるから」（59.7%→42.3%）、「相手が謝ったから」（30.6%→19.2%）、「いつもされているわけじゃなかったから」（58.3%→48.1%）は１割以上減少しています。一方、「相手が別れてくれなかったから」（22.2%→38.5%）、「大したことじゃないと思ったから」（27.8%→32.7%）、「自分が我慢すればいいと思ったから」（36.1%→40.4%）などは増加しています。（図表 50）

図表 51　別れなかった理由（男女別・年代列）



■男女別の傾向

男女別にみると、女性は「嫌だったけど、いいところもあるから」（50.0%）が最も多く、男性（23.1%）の倍以上となっています。また、「それも愛情だと思ったから」（男性 0.0%、女性 18.4%）、「大したことじゃないと思ったから」（男性 23.1%、女性 36.8%）も女性が男性を１割以上上回っています。一方、男性は「秘密を暴露すると脅されたから」（男性 7.7%、女性 0.0%）、「自分が我慢すればいいと思ったから」（男性 46.2%、女性 39.5%）、「相手が謝ったから」（男性 23.1%、女性 18.4%）で女性を上回っています。（図表 51）

■年代別の傾向

年代別にみると、「大したことじゃないと思ったから」（高校生 42.1%、大学生 27.3%）、「それも愛情だと思ったから」（高校生 21.1%、大学生 9.1%）は高校生が大学生を１割以上上回っています。一方、「嫌だったけど、いいところもあるから」（高校生 31.6%、大学生 48.5%）、「相手が謝ったから」（高校生 10.5%、大学生 24.2%）、「いつもされているわけじゃなかったから」（高校生 42.1%、大学生 51.5%）などは大学生で高くなっています。（図表 51）

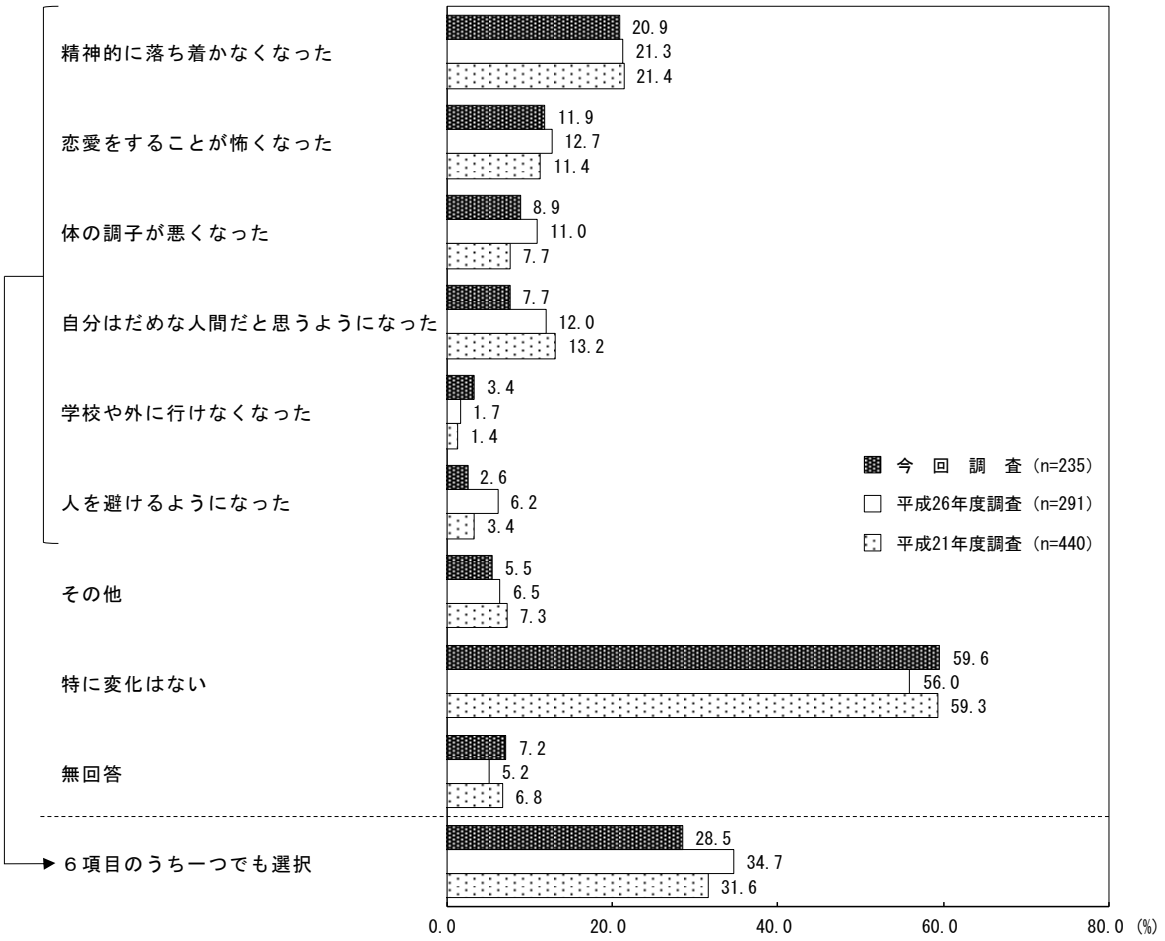
■「その他」の回答

分類	主な内容	件数
相手に起因	○ 相手が病んでる時だけだから（高校２年） ○ 別れたくないとわがままを言われて、めんどくさくなるから（大学２年女性）	2
自分に起因	○ 独りになるのが恐かった（高校２年男性）	1
その他	○ 話し合ったから（大学３年女性）	1

問８　被害が及ぼした影響

問８　問６で「受けたことがある」と回答した方にお聞きします。
あなたは交際相手からそのような行為を受けたことによって、どのような影響がありましたか。（当てはまる番号すべてに○）

図表 52　被害が及ぼした影響（時系列）

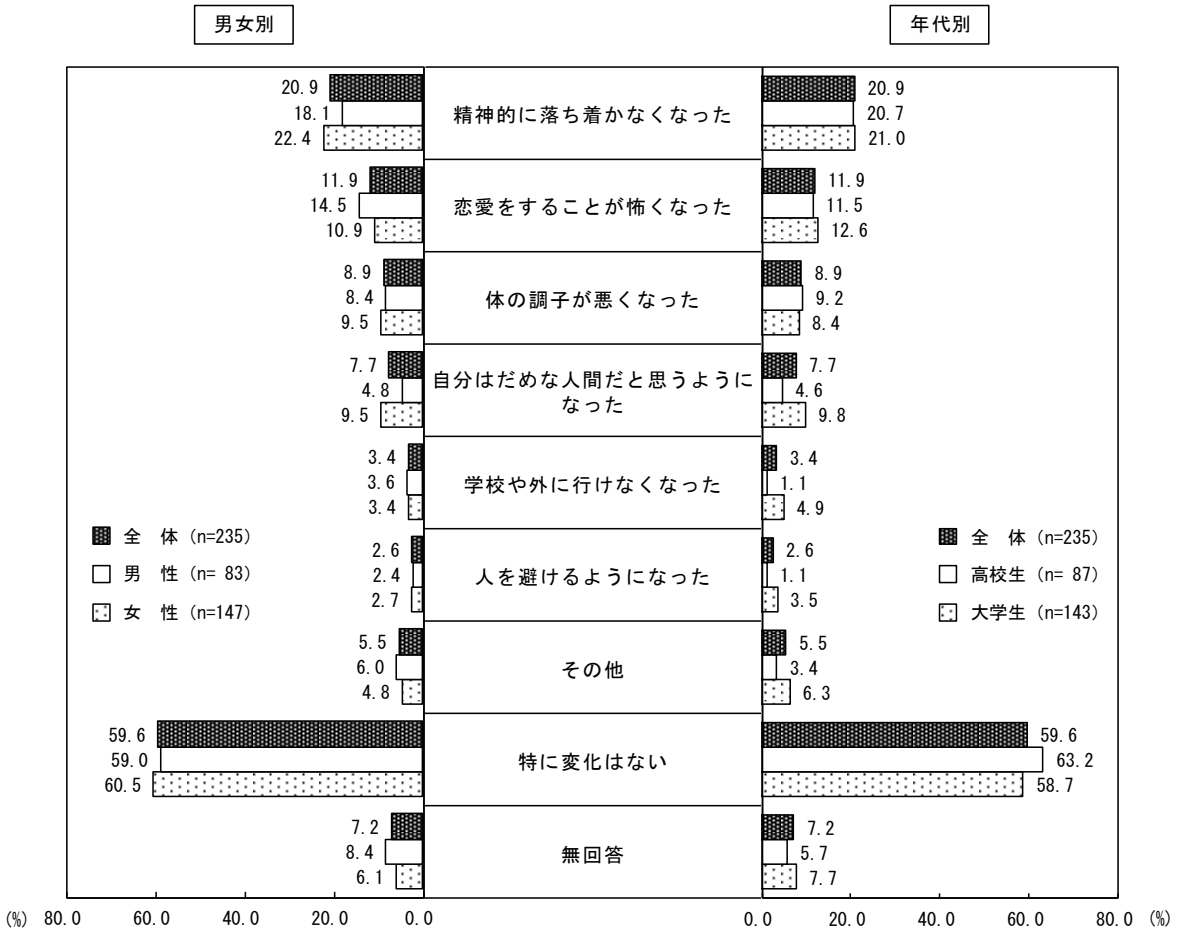


■全体の傾向

被害を「受けたことがある」と回答した人（235 人）に、被害が及ぼした影響について聞いたところ、全体の 28.5%の人が何らかの影響を受けています。具体的には「精神的に落ち着かなくなった」が 20.9%で最も多く、次いで「恋愛をすることが怖くなった」（11.9%）、「体の調子が悪くなった」（8.9%）などの順となっています。一方、「特に変化はない」（59.6%）は約６割を占めています。

過去の調査結果と比較すると、何らかの影響を受けた人は平成 26 年度（34.7%）に比べ 6.2 ポイント減少しています。また、「自分はだめな人間だと思うようになった」は、平成 21 年度以降減少傾向にあります。一方、「特に変化はない」は平成 26 年度（56.0%）に比べ 3.6 ポイント増加しています。（図表 52）

図表 53　被害が及ぼした影響（男女別・年代列）



■男女別の傾向

男女別にみると、「恋愛をすることが怖くなった」（男性 14.5%、女性 10.9%）は男性、「精神的に落ち着かなくなった」（男性 18.1%、女性 22.4%）、「自分はだめな人間だと思うようになった」（男性 4.8%、女性 9.5%）は女性で高くなっていますが、全体的な傾向に大きな差はみられません。（図表 53）

■年代別の傾向

年代別にみると、「自分はだめな人間だと思うようになった」（高校生 4.6%、大学生 9.8%）、「学校や外に行けなくなった」（高校生 1.1%、大学生 4.9%）などの項目は、大学生が高校生より高くなっています。一方、「特に変化はない」は高校生（63.2%）が大学生（58.7%）を 4.5 ポイント上回っています。（図表 53）

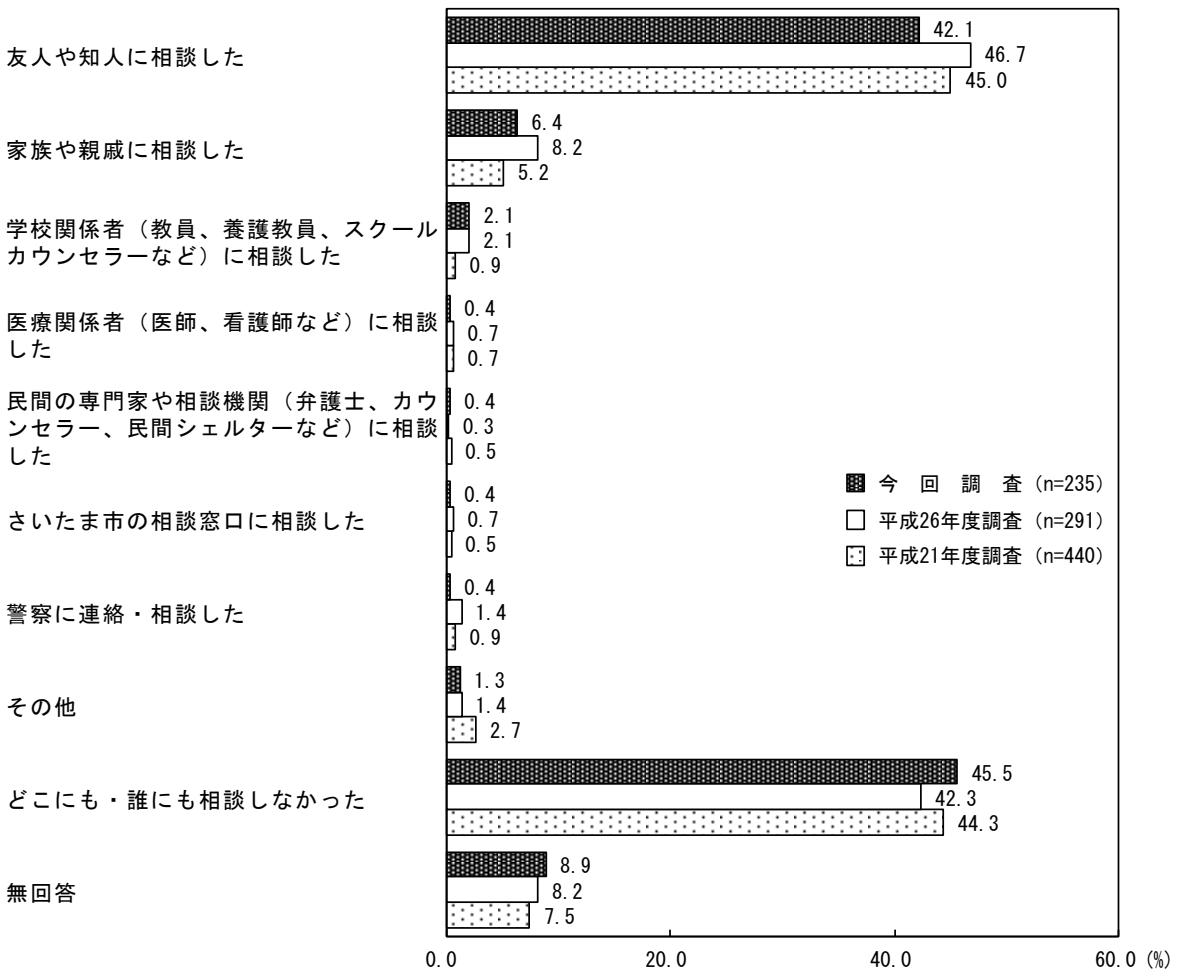
■「その他」の回答

分類	主な内容	件数
人間関係への影響	○ 他の友人とトラブルが起こった（高校２年男性） ○ 男の人がこわくなった時期がある（大学４年女性） ○ 大学の集まりなどに参加しづらくなった（大学１年男性） ○ 周りの友だちとの恋愛観が常に狂う・差があるようになった（大学２年女性）	4
相手に対する感情	○ 相手をめんどくさく思った（大学１年女性） ○ 性的な行為が怖い、その人と会うのが怖い（大学２年女性） ○ 相手を信用するのが難しくなった（大学４年男性） ○ 気持ち悪かった（大学３年女性）	4
対処法	○ 罵倒=ツンデレと思って生活した（高校生） ○ その人を避けた（大学４年女性）	2
その他	○ ふざけてなので、特に何も思わなかった（高校１年男性） ○ 人間ケンカくらいする（大学２年男性）	2

問９　被害の相談先

問９　問６で「受けたことがある」と回答した方にお聞きします。
あなたは交際相手から受けたそのような行為について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。（当てはまる番号すべてに○）

図表 54　被害の相談先（時系列）

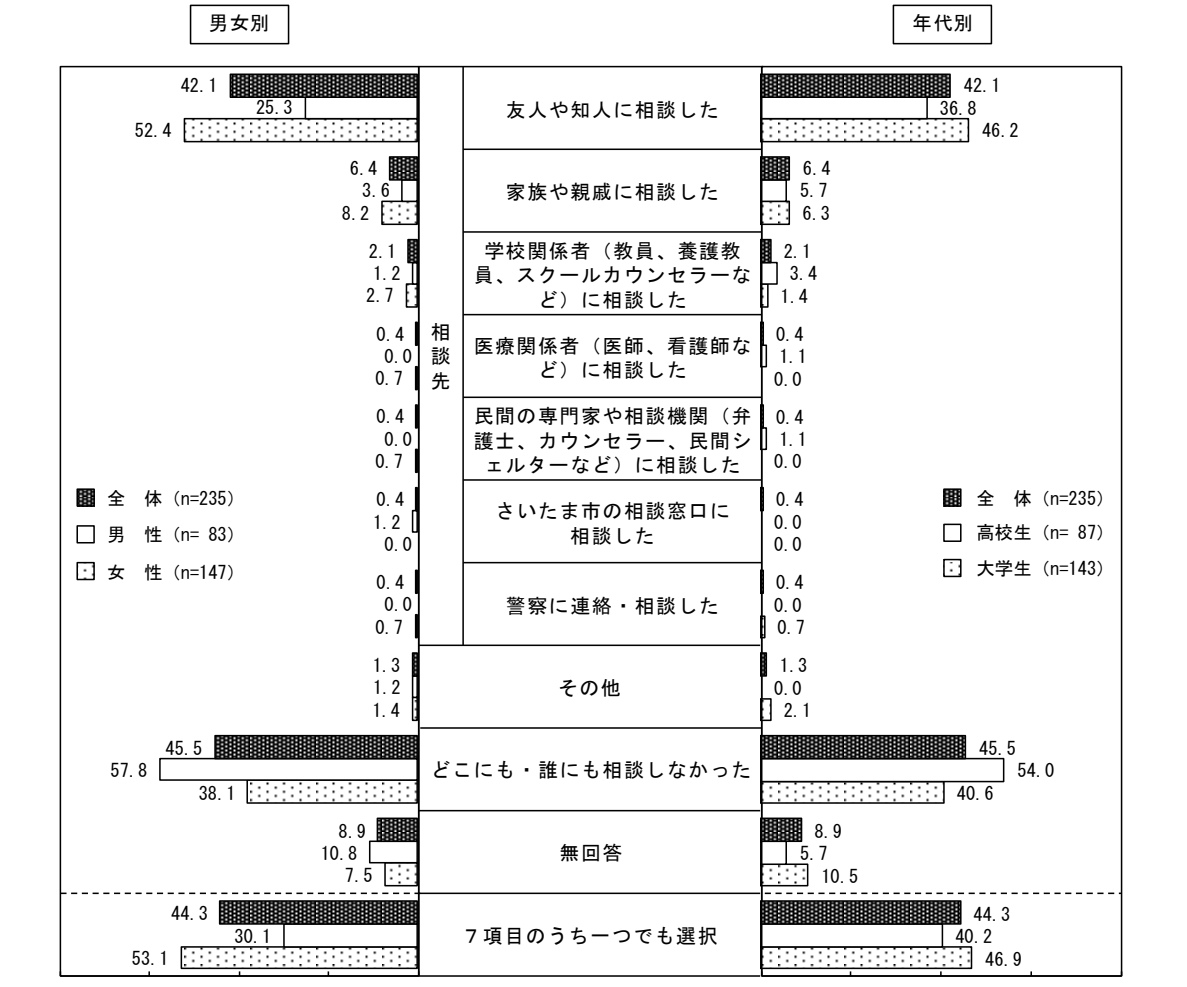


■全体の傾向

被害を「受けたことがある」と回答した人（235 人）に、相談先を聞いたところ、「どこにも・誰にも相談しなかった」（45.5%）が「友人や知人に相談した」（42.1%）を上回り、最も高くなっています。また、「家族や親戚に相談した」（6.4%）以下の項目はいずれも１割未満となっています。

過去の調査結果とおおむね同様の傾向となっていますが、平成 26 年度との比較では、「どこにも・誰にも相談しなかった」（42.3%→45.5%）が 3.2 ポイント増加する一方、「友人や知人に相談した」（46.7%→42.1%）は 4.6 ポイント減少しています。（図表 54）

図表 55　被害の相談先（男女別・年代別）



■男女別の傾向

男女別にみると、女性は誰かに打ち明けたり相談した割合が 53.1%と半数を超え、男性(30.1%)を２割以上上回っています。内訳は「友人や知人に相談した」（52.4%）が大半を占め、「家族や親戚に相談した」(8.2%）以下の項目は１割未満となっています。一方、男性は「どこにも・誰にも相談しなかった」（57.8%）が６割近くを占めています。(図表 55)

■年代別の傾向

年代別にみると、高校生は「どこにも・誰にも相談しなかった」（54.0%）が半数を超え、相談した割合（40.2%）を１割以上上回っています。一方、大学生は相談した割合（46.9%）が「どこにも・誰にも相談しなかった」（40.6%）をやや上回っています。相談先は「友人や知人に相談した」(高校生 36.8%、大学生 46.2%）が高校生、大学生いずれも大半を占めています。(図表 55)

■「その他」の回答

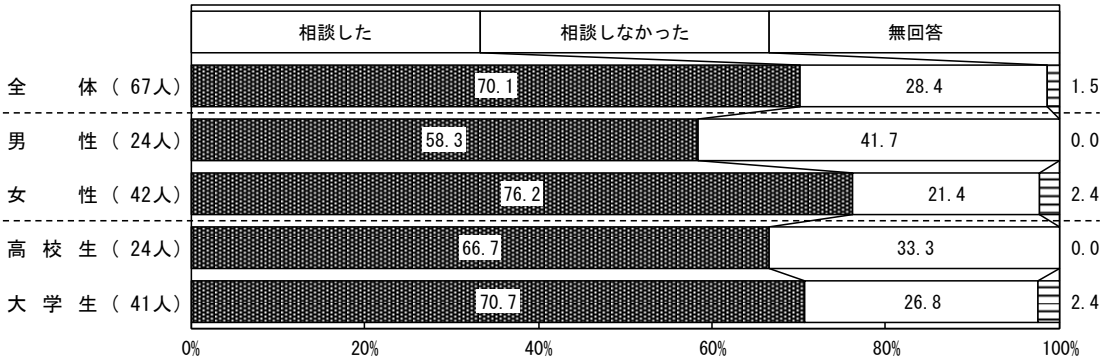
分類	主な内容	件数
交際相手	○ 本人に言った（「やめてくれー」って）（大学２年女性）	1
その他	○ 笑い話にした（大学４年男性）	1

＜被害が及ぼした影響と被害相談の有無＞

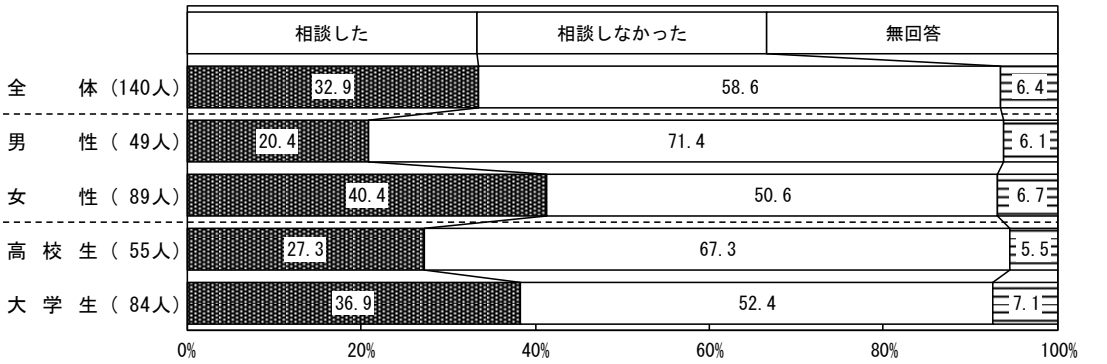
問８で、デートＤＶの被害により何らかの影響を受けたと回答した人を「影響あり」、特に変化はない人を「影響なし」として表しています。

問９で、交際相手からの被害を誰かに相談したと回答した人を「相談した」、どこにも・誰にも相談しなかった人を「相談しなかった」として表しています。

図表 56　「影響あり」の人の相談の有無（男女別・年代列）



図表 57　「影響なし」の人の相談の有無（男女別・年代列）



■全体の傾向

「影響あり」の人は「相談した」（70.1%）が７割を占め、「相談しなかった」（28.4%）を大きく上回っています。一方、「影響なし」の人は「相談しなかった」（58.6%）が半数を超え、「相談した」（32.9%）より高くなっています。（図表 56．57）

■男女別および年代別の傾向

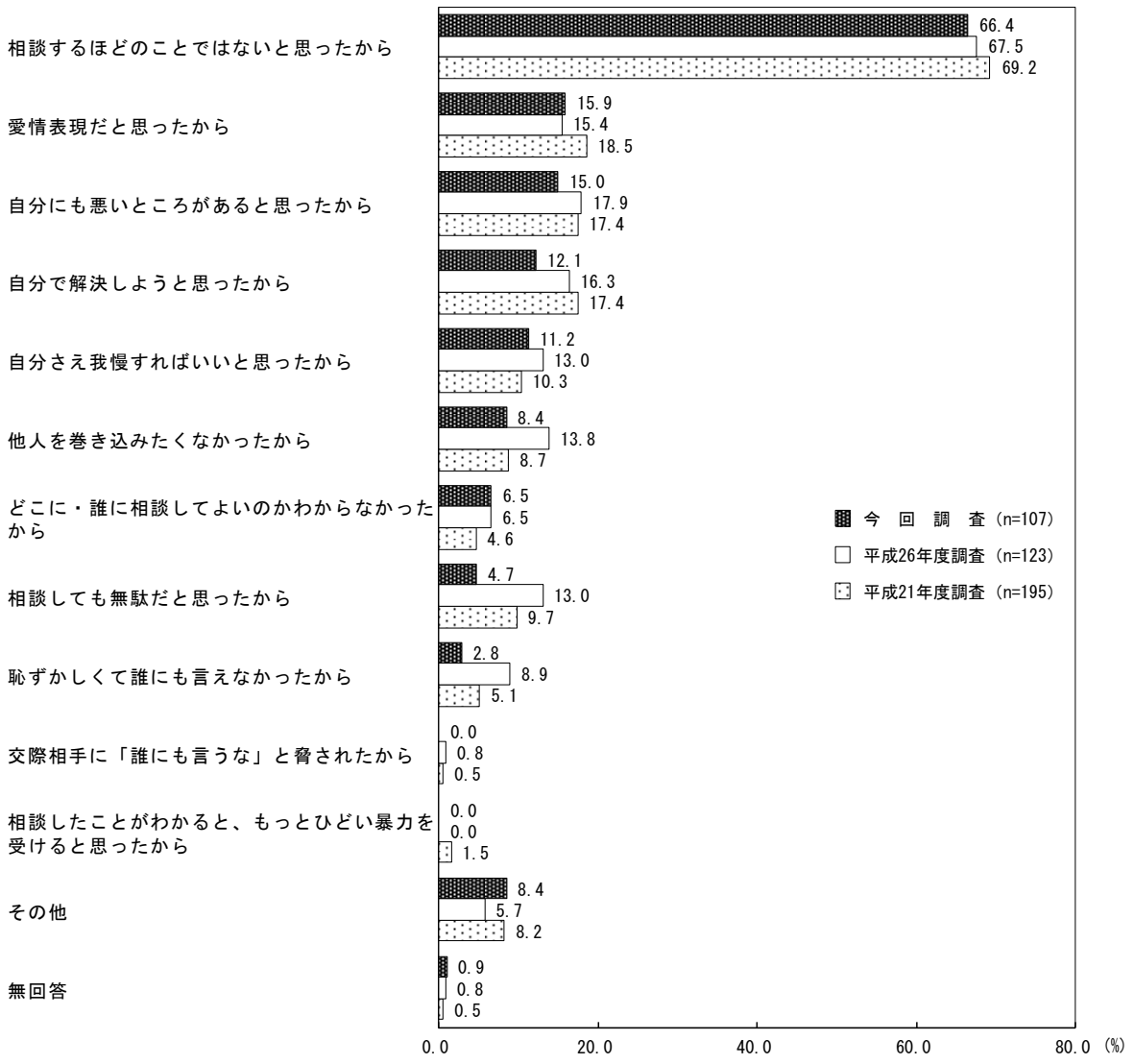
男女別にみると、「相談した」割合は「影響あり」（男性 58.3%、女性 76.2%）、「影響なし」（男性 20.4%、女性 40.4%）いずれも女性が男性を上回っています。男性は「影響あり」の層においても「相談しなかった」（41.7%）が４割を占めています。

年代別にみると、「相談した」割合は「影響あり」（高校生 66.7%、大学生 70.7%）、「影響なし」（高校生 27.3%、大学生 36.9%）となっており、特に「影響なし」の層における高校生の割合が低くなっています。（図表 56．57）

問９－１　どこにも・誰にも相談しなかった理由

問９－１　問９で「どこにも・誰にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。
あなたが誰にも相談しなかったのはなぜですか。（当てはまる番号すべてに○）

図表 58　どこにも・誰にも相談しなかった理由（時系列）

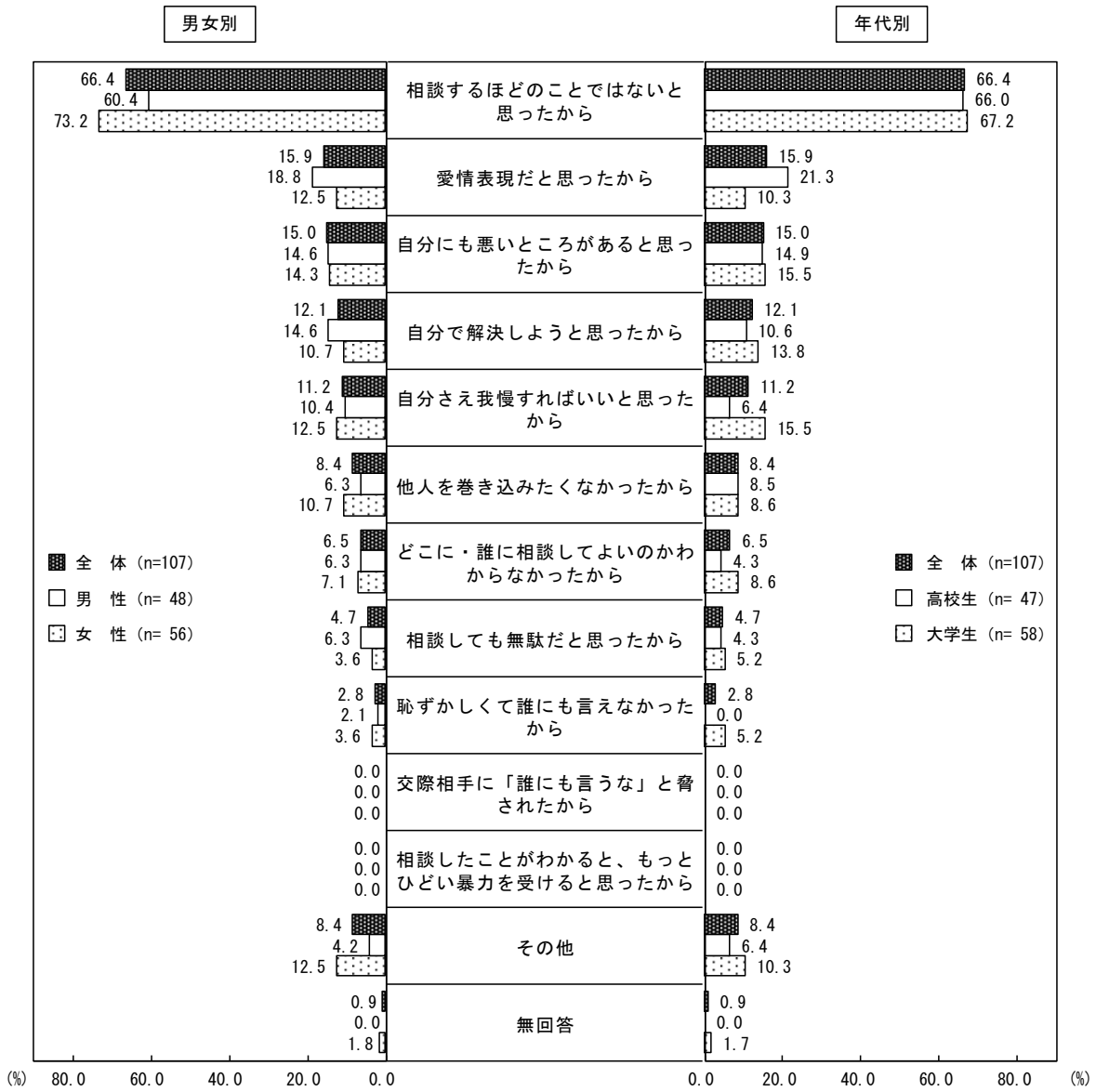


■全体の傾向

被害を「どこにも・誰にも相談しなかった」と回答した人（107 人）に、その理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が 66.4%で最も多く、次いで「愛情表現だと思ったから」（15.9%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（15.0%）などの順となっています。

過去の調査結果と比較すると、引き続き「相談するほどのことではないと思ったから」が突出する傾向にあり、「他人を巻き込みたくなかったから」「相談しても無駄だと思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」は平成 26 年度より５ポイント以上減少しています。（図表 58）

図表 59　どこにも・誰にも相談しなかった理由（男女別・年代列）



■男女別の傾向

男女別にみると、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最多となっていますが、男性（60.4%）に比べ女性（73.2%）は 12.8 ポイント高くなっています。（図表 59）

■年代別の傾向

年代別にみると、「愛情表現だと思ったから」は、高校生（21.3%）が大学生（10.3%）の倍以上高くなっています。一方、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」（高校生 6.4%、大学生 15.5%）、「どこに・誰に相談してよいのかわからなかったから」（高校生 4.3%、大学生 8.6%）は、大学生が高校生を上回っています。（図表 59）

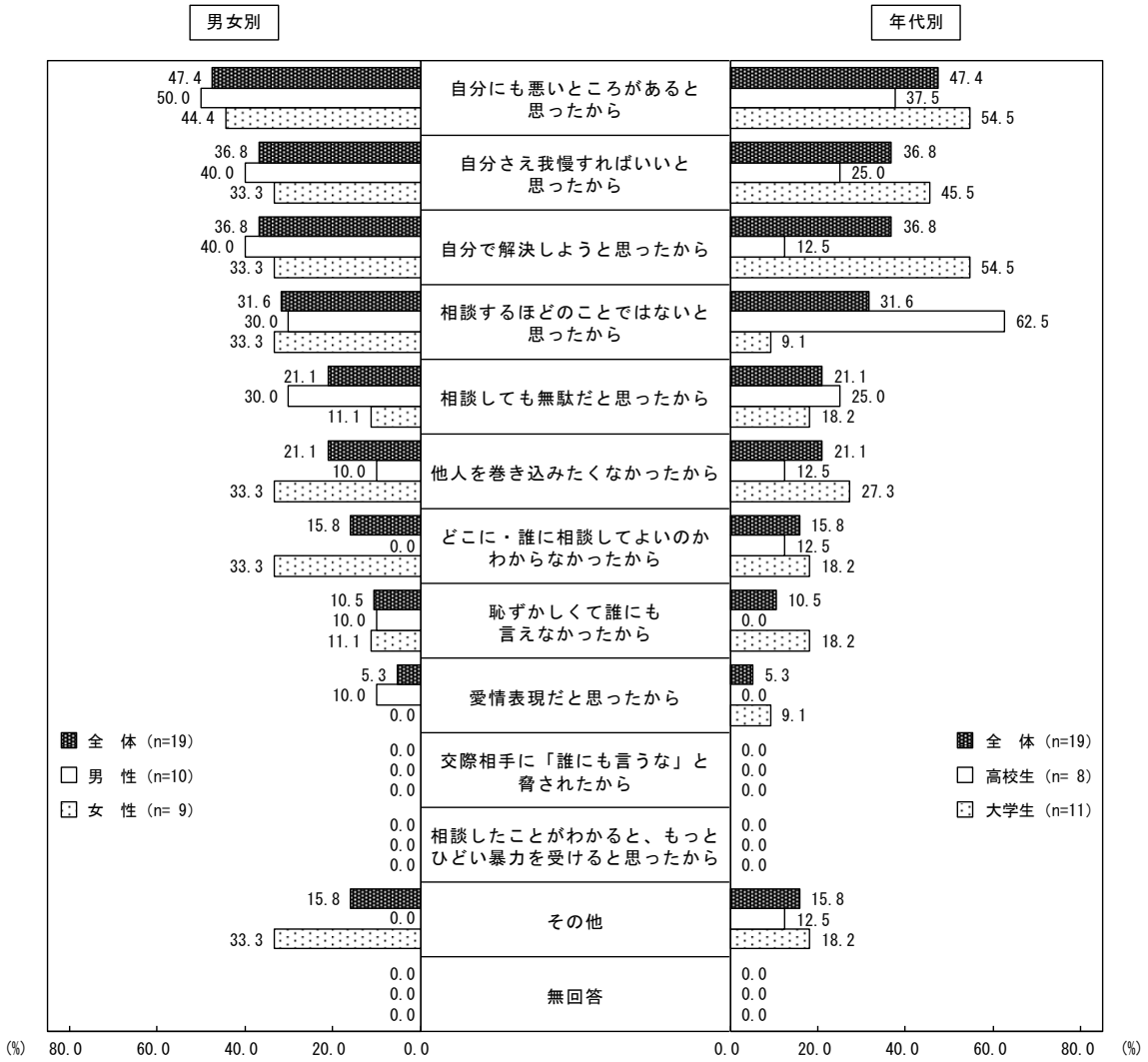
■「その他」の回答

分類	主な内容	件数
大したことはない	○ 嫌になるほどバカにされていないから（高校２年女性） ○ その必要がなかったから（大学２年女性）	2
暴力と認識していない	○ 暴力だと感じなかったから（高校２年男性） ○ ＤＶではないから、相談とは…？？（大学２年男性）	2
別れた	○ すぐに別れたから（高校１年女性）	1
話し合った	○ 交際相手に自分の気持ちを伝えて話し合える時間を設けられたから（大学３年女性）	1
不信感	○ どうせ″別れろ″というアドバイスしかもらえないと思ったから（大学院女性）	1
その他	○ それがあたりまえ（大学２年女性）	1

＜デートＤＶの被害により影響を受けた人が、どこにも・誰にも相談しなかった理由＞

問８で、デートＤＶの被害により何らかの影響を受けたと回答した人を「影響あり」としています。

図表 60　デートＤＶの被害により影響を受けた人が、どこにも・誰にも相談しなかった理由
（男女別・年代別）



■全体の傾向

「自分にも悪いところがあると思ったから」が 47.4％で最も高く、次いで「自分さえ我慢すればいいと思ったから」（36.8％）、「自分で解決しようと思ったから」（36.8％）の順となっています。

「影響なし」を含む問 9－1 と比べ、「相談するほどのことではないと思ったから」（全体 66.4％、影響あり 31.6％）が半減する一方、上位３項目はいずれも約３倍に増加しています。（図表 60）

■男女別および年代別の傾向

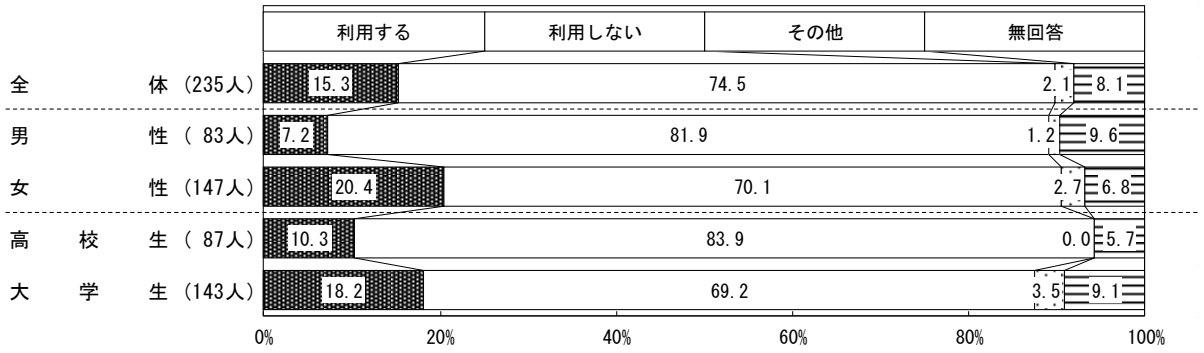
男女別にみると、「相談しても無駄だと思ったから」は男性（30.0%）が女性（11.1%）を３倍近く上回っています。一方、「他人を巻き込みたくなかったから」（男性 10.0%、女性 33.3%）、「どこに・誰に相談してよいのかわからなかったから」（男性 0.0%、女性 33.3%）は女性の割合が高くなっています。

年代別にみると、高校生は「相談するほどのことではないと思ったから」（全体 66.0%、影響あり 62.5%）が「影響なし」を含む全体とほぼ同率であり、大学生（9.1%）を大きく上回っています。一方、大学生は「自分にも悪いところがあると思ったから」（54.5%）、「自分で解決しようと思ったから」（54.5%）、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」（45.5%）など上位３項目で５割前後を占める他、ほとんどの項目で高校生を上回っています。（図表 60）

問 10　メールでの相談窓口の利用意向

問 10　問６で「受けたことがある」と回答した方にお聞きします。
メールでの相談窓口があったら利用しますか。当てはまる番号に○をつけてください。
（○は１つだけ）

図表 61　メールでの相談窓口の利用意向（男女別・年代列）



■全体の傾向

被害を「受けたことがある」と回答した人（235 人）に、メールでの相談窓口の利用意向について聞いたところ、「利用する」が 15.3%、「利用しない」が 74.5%で、「利用しない」が「利用する」を大きく上回っています。（図表 61）

■男女別および年代別の傾向

男女別にみると、「利用する」割合は女性（20.4%）が男性（7.2%）を倍以上上回っています。

年代別にみると、「利用する」割合は大学生（18.2%）が高校生（10.3%）より 7.9 ポイント高くなっています。（図表 61）

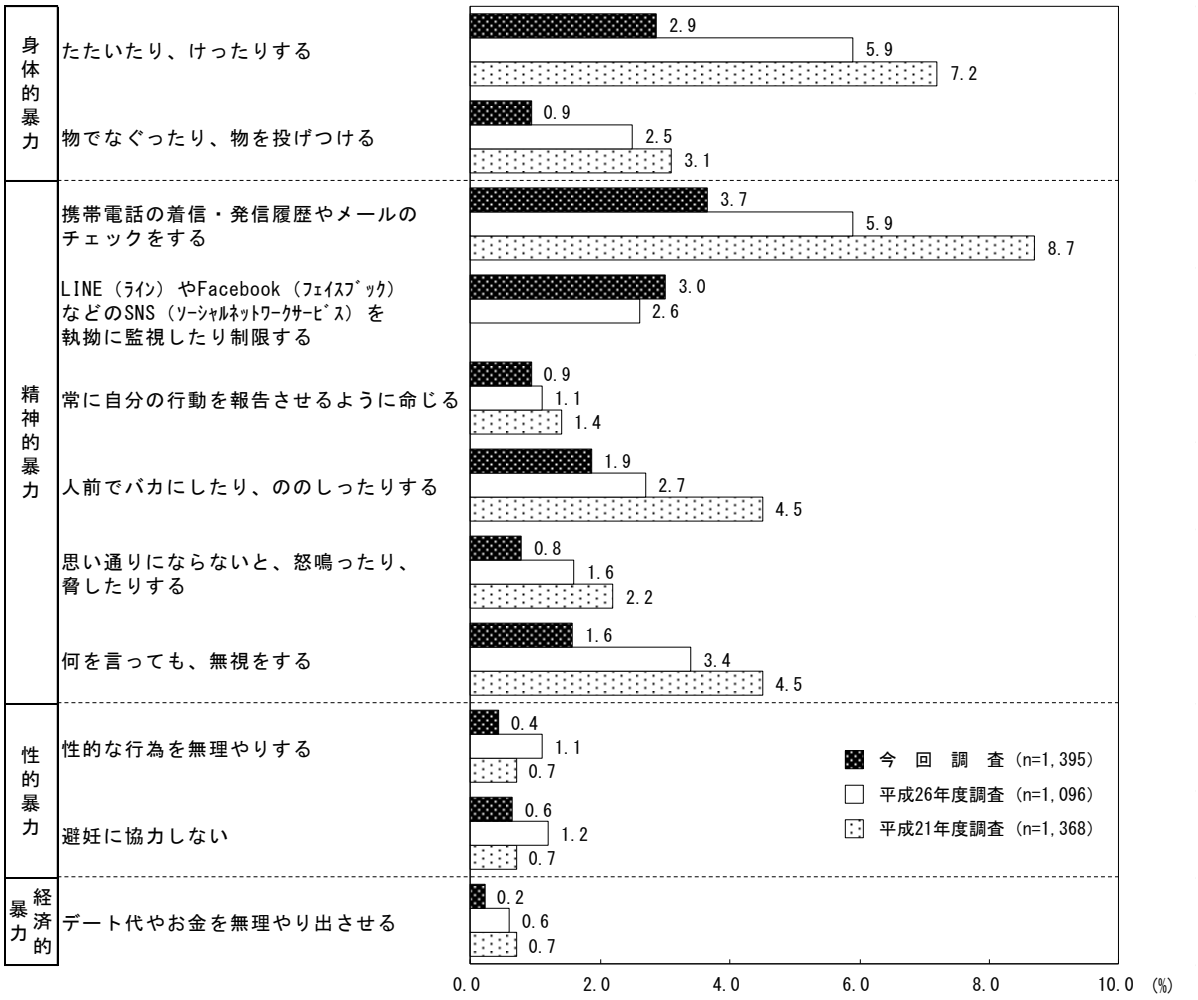
■「その他」の回答

分類	主な内容	件数
利用するかもしれない	○ 被害のレベルによる（大学１年女性） ○ 利用するかもしれない（大学２年女性）	2
LINE希望	○ ＬＩＮＥがうれしい（大学２年女性）	1
その他	○ 知らない（大学２年男性） ○ あまり自分が重要視していない部分がある（大学２年女性）	2

問 11　交際相手への加害経験

問 11　問５で「交際相手がいる（いた）」と回答した方にお聞きします。
あなたはこれまでに以下のようなことを、交際相手にしたことがありますか。
それぞれの項目について当てはまる方に○をつけてください。

図表 62　交際相手への加害経験（時系列）



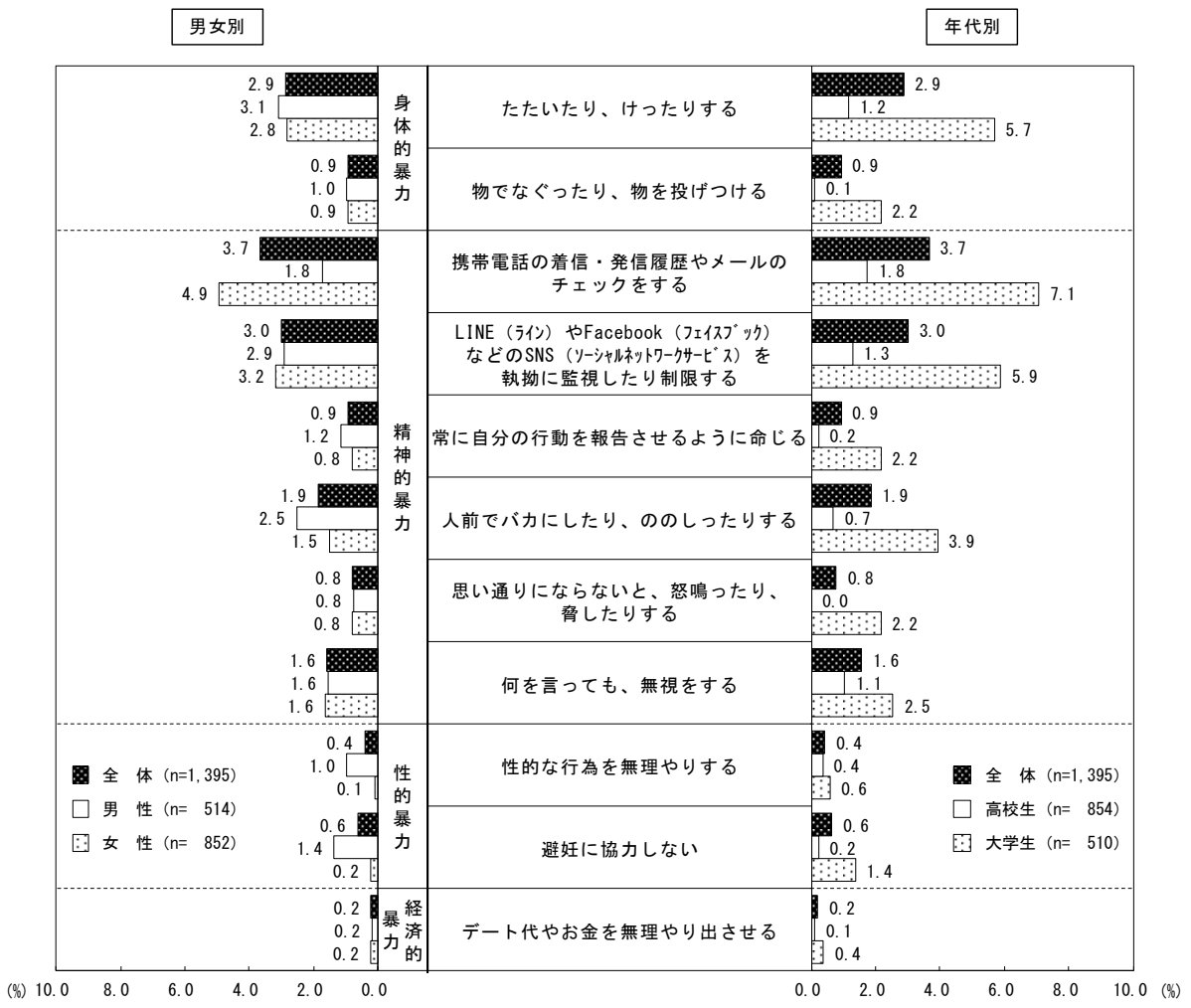
（注記）平成 21 年度調査では、「LINE（ﾗｲﾝ）や Facebook（ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ）などの SNS（ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ）を執拗に監視したり制限する」の設問項目なし

■全体の傾向

交際相手へのデートＤＶの加害経験は、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」が 3.7％で最も多く、次いで「LINE(ﾗｲﾝ)や Facebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)などの SNS(ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ)を執拗に監視したり制限する」（3.0％）、「たたいたり、けったりする」（2.9％）の順となっています。上位２項目は被害経験と共通ですが、割合は半数以下となっています。

過去の調査結果と比較すると、ほとんどの項目が減少傾向にあり、身体的暴力、性的暴力、経済的暴力は平成 26 年度の半数以下となっています。精神的暴力も減少傾向にありますが、「LINE(ﾗｲﾝ)や Facebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)などの SNS(ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ)を執拗に監視したり制限する」は平成 26 年度（2.6％）をやや上回っています。（図表 62）

図表 63　交際相手への加害経験（男女別・年代列）



■男女別の傾向

男女別にみると、女性は「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（4.9%）が最も高く、男性（1.8%）を倍以上上回っています。一方、性的暴力は男性の加害経験が女性を上回り、「人前でバカにしたり、ののしったりする」（男性 2.5%、女性 1.5%）についても男性の方が女性よりやや高くなっています。（図表 63）

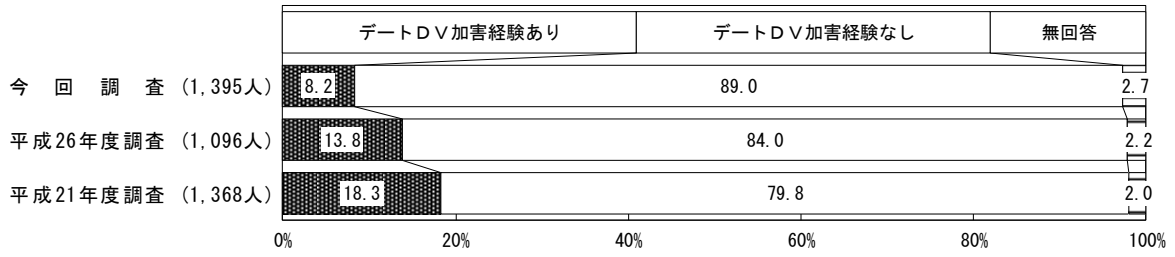
■年代別の傾向

年代別にみると、全ての項目で大学生が高校生を上回っています。全体の上位３項目「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（高校生 1.8%、大学生 7.1%）、「LINE(ﾗｲﾝ)やFacebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)なの SNS(ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ)を執拗に監視したり制限する」（高校生 1.3%、大学生 5.9%）、「たたいたり、けったりする」（高校生 1.2%、大学生 5.7%）についても、大学生が高校生より４ポイント以上高くなっています。（図表 63）

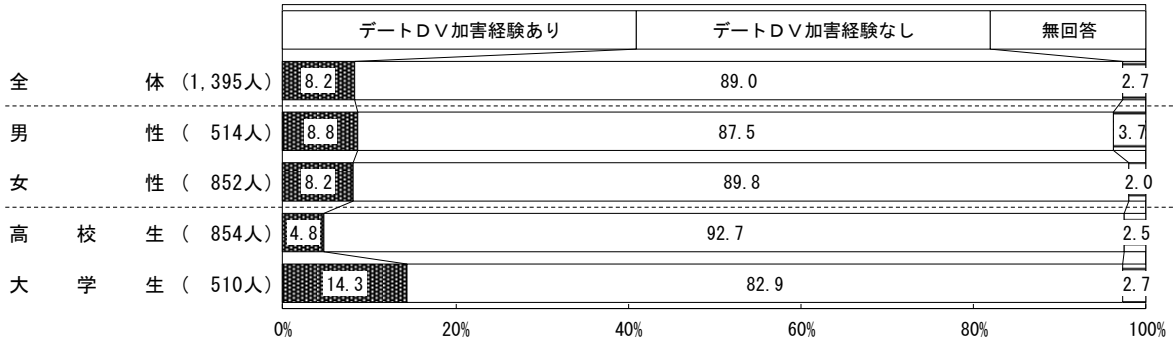
＜デートＤＶの加害経験について＞

問 11 のデートＤＶの加害経験に関する項目に一つでも「したことがある」と回答した人を「デートＤＶ加害経験あり」、全くない人を「デートＤＶ加害経験なし」として表しています。

図表 64　デートＤＶの加害経験の有無（時系列）



図表 65　デートＤＶの加害経験の有無（男女別・年代別）



■全体の傾向

交際相手へのデートＤＶの加害経験について、「デートＤＶ加害経験あり」は 8.2%、「デートＤＶ加害経験なし」は 89.0%となっています。「デートＤＶ加害経験あり」は「デートＤＶ被害経験あり」（16.8%）の約半数となっています。

過去の調査結果と比較すると、「デートＤＶ加害経験あり」は減少傾向にあり、令和元年度は平成 26 年度（13.8%）より 5.6 ポイント減少しています。（図表 64）

■男女別および年代別の傾向

男女別にみると、「デートＤＶ加害経験あり」は男性（8.8%）、女性（8.2%）ともに１割未満であり、大きな差はみられません。

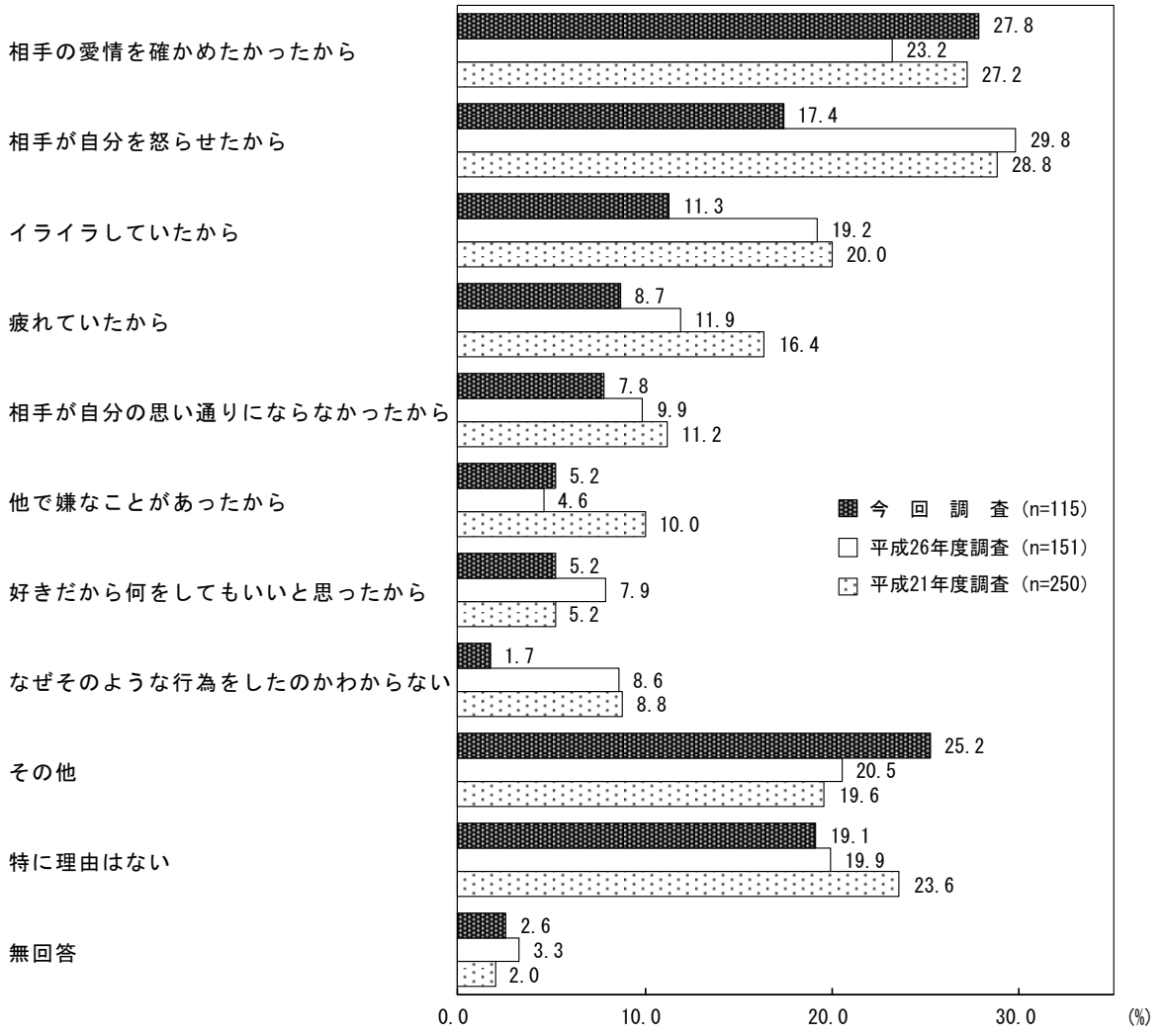
年代別にみると、「デートＤＶ加害経験あり」は大学生（14.3%）が高校生（4.8%）より約１割高くなっています。（図表 65）

4　デートＤＶの発生要因について

問 12　加害行為の理由

問 12　問 11 で「したことがある」と回答した方にお聞きします。
あなたは、なぜ交際相手にそのようなことをしたのですか。
（当てはまる番号すべてに○）

図表 66　加害行為の理由（時系列）

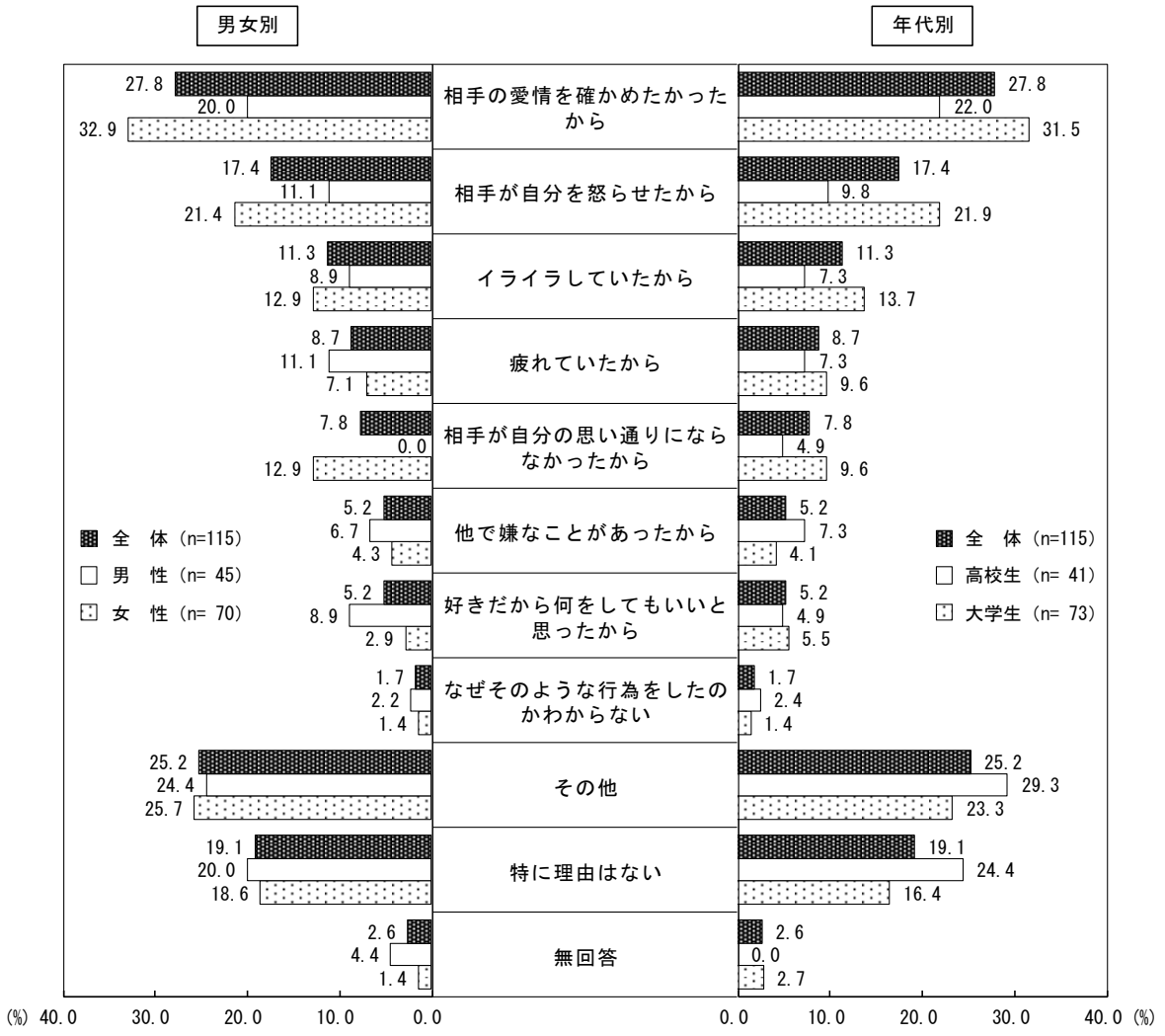


■全体の傾向

加害行為を「したことがある」と回答した人（115 人）にその理由を聞いたところ、「相手の愛情を確かめたかったから」が 27.8%で最も多く、次いで「特に理由はない」（19.1%）、「相手が自分を怒らせたから」（17.4%）、「イライラしていたから」（11.3%）の順となっています。

過去の調査結果と比較すると、平成 26 年度に比べ「相手が自分を怒らせたから」（29.8%→17.4%）、「イライラしていたから」（19.2%→11.3%）が１割前後減少する一方、「相手の愛情を確かめたかったから」（23.2%→27.8%）は 4.6 ポイント増加しています。（図表 66）

図表 67　加害行為の理由（男女別・年代列）



■男女別の傾向

男女別にみると、「相手の愛情を確かめたかったから」（男性 20.0%、女性 32.9%）、「相手が自分を怒らせたから」（男性 11.1%、女性 21.4%）、「相手が自分の思い通りにならなかったから」（男性 0.0%→女性 12.9%）は女性が男性を１割以上上回っています。一方、「好きだから何をしてもいいと思ったから」（男性 8.9%、女性 2.9%）、「疲れていたから」（男性 11.1%、女性 7.1%）などは男性が女性より高くなっています。（図表 67）

■年代別の傾向

年代別にみると、ほとんどの項目で大学生が高校生を上回っており、「相手が自分を怒らせたから」（高校生 9.8%、大学生 21.9%）、「相手の愛情を確かめたかったから」（高校生 22.0%、大学生 31.5%）、「イライラしていたから」（高校生 7.3%、大学生 13.7%）などは両者に６ポイント以上差が生じています。一方、「特に理由はない」（高校生 24.4%、大学生 16.4%）は高校生が大学生より８ポイント高くなっています。（図表 67）

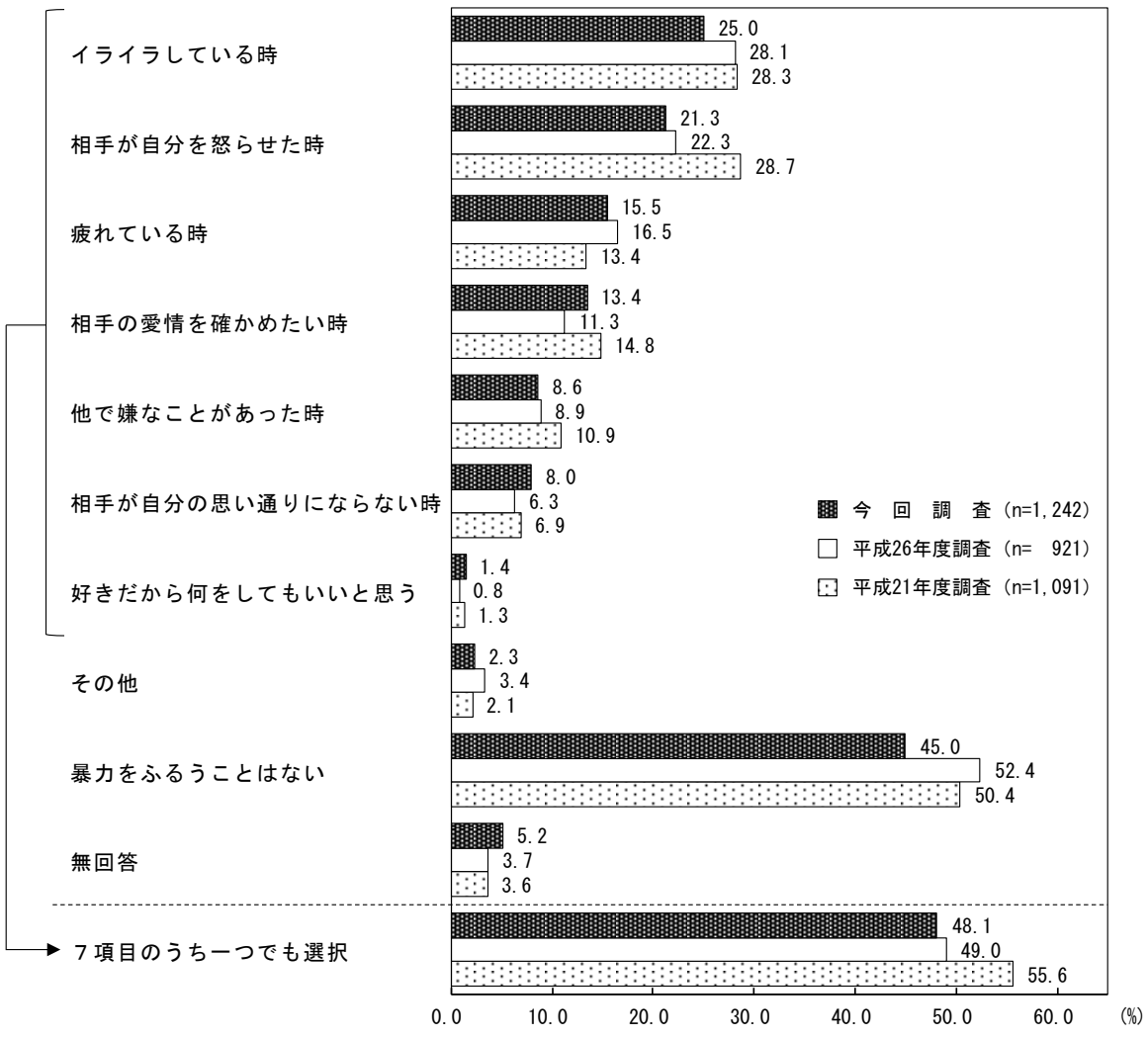
■「その他」の回答

分類	主な内容	件数
相手に起因	○ 相手が先にしたから（高校３年女性、大学２年女性、大学４年女性） ○ 相手の性格（ドM、メンヘラ、かまちょ）（大学１～２年男性、大学３年女性） ○ ＳＮＳで自分のことをかかれたから（高校３年男性） ○ 相手の対応が酷くて、無視しないわけにいかなかったから（高校１年女性） ○ 相手からの頼み（高校１年男性）	11
自分に起因	○ 気になるから（大学１～２年女性） ○ 別れたかった（高校２年男性） ○ 人前だと意地をはってしまうから（高校１年男性） ○ 親に付き合っていることをばれたくなかったから（大学２年女性） ○ 心配だったから（大学２年男性）	6
冗談・遊び	○ ふざけていた、冗談（高校２年女性、大学１年女性、大学院女性） ○ その場のノリ（高校３年女性） ○ 相手を限界まで無視するゲーム（大学１年男性）	6
争い	○ ケンカ中だったから（高校３年女性、大学２年男性、大学２年女性）	3
その他	○ お互いそうする流れだったから（高校３年男性、大学１年女性） ○ 1.8番はお互いふざけて行ったもの。7番に関しては反省しています（大学１年男性）	3

問 13　暴力をふるう可能性がある状況

問 13　問 11 で「したことはない」と回答した方にお聞きします。
もし今後問 11 にあるような行為をしてしまうとしたら、その時のあなたの状況はどういった時だと思いますか。（当てはまる番号すべてに○）

図表 68　暴力をふるう可能性がある状況（時系列）

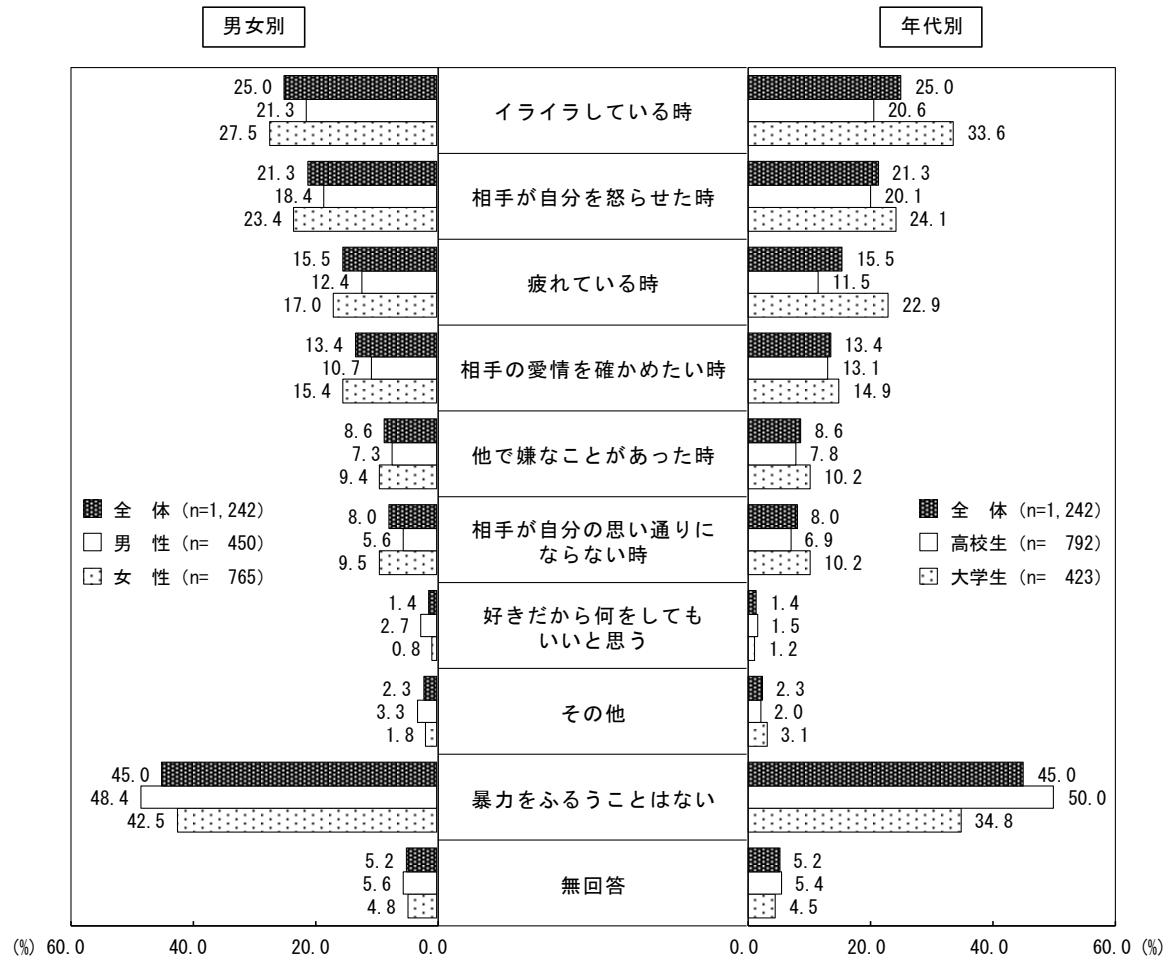


■全体の傾向

暴力をふるう可能性がある状況について聞いたところ、全体の 48.1%が暴力をふるう可能性があると回答しています。具体的には「イライラしている時」が 25.0%で最も高く、次いで「相手が自分を怒らせた時」(21.3%)、「疲れている時」(15.5%) などの順となっています。一方、「暴力をふるうことはない」は 45.0%で、暴力をふるう可能性がある割合とほぼ拮抗しています。

過去の調査結果と比較すると、上位３項目が平成 26 年度を下回る一方、「相手の愛情を確かめたい時」(11.3%→13.4%)、「相手が自分の思い通りにならない時」(6.3%→8.0%) はやや増加しています。また、「暴力をふるうことはない」は平成 26 年度 (52.4%) に比べ、7.4 ポイント減少しています。(図表 68)

図表 69　暴力をふるう可能性がある状況（男女別・年代列）



■男女別の傾向

男女別にみると、ほとんどの項目で女性が男性を上回り、「イライラしている時」（男性 21.3%、女性 27.5%）、「相手が自分を怒らせた時」（男性 18.4%、女性 23.4%）など上位４項目は女性が男性より５ポイント前後高くなっています。一方、「暴力をふるうことはない」（男性 48.4%、女性 42.5%）は男性が女性を 5.9 ポイント上回っています。（図表 69）

■年代別の傾向

年代別にみると、ほとんどの項目で大学生が高校生を上回り、「イライラしている時」（高校生 20.6%、大学生 33.6%）、「疲れている時」（高校生 11.5%、大学生 22.9%）は大学生が高校生より１割以上高くなっています。一方、「暴力をふるうことはない」（高校生 50.0%、大学生 34.8%）は高校生で半数を占め、大学生を１割以上上回っています。（図表 69）

■「その他」の回答

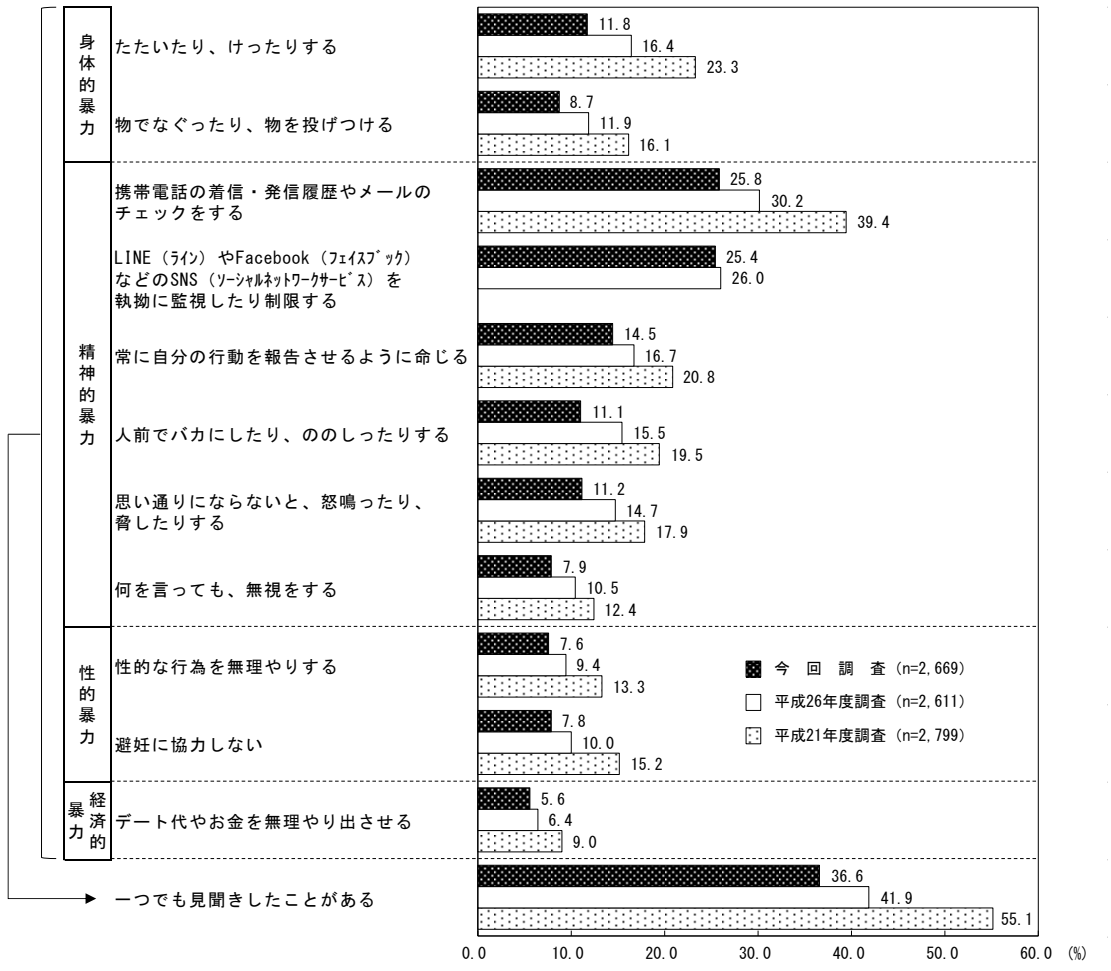
分類	主な内容	件数
相手に起因	○ 浮気された時（高校１年女性、大学２年男性） ○ されたらやり返す（高校３年女性） ○ 相手が自分の大切な人を害した時（大学２年女性） ○ 好きじゃないのに別れさせてくれない時（大学４年女性） ○ 相手が相手自身の事をないがしろにしている時（大学１年男性） ○ 相手にそういう趣味があった時（大学３年男性）	7
自分に起因	○ 好きだから（高校１年女性） ○ 金がなかった（高校２年男性） ○ 面白いから（高校２年男性） ○ 精神的に追いつめられている時（大学１年女性） ○ 不安になった時（大学３年女性）	5
争い	○ ケンカした時（高校２年女性、高校３年男性、大学１年女性）	3
わからない、想像できない	○ 問11のことをする人の気持ちがわからないし、しようと思う状況が思いつかない（高校１年女性、高校２年男性、大学２年女性）	3
その他	○ もう相手のことが嫌いになって、さらに逆に暴力などをふられた時（高校１年男性） ○ するとしても物に当たる（高校２年男性） ○ ぜったいない、この質問はおかしいと思う（高校１年男性） ○ ひどい事を言っても、すぐに謝る（大学４年女性） ○ ふざけてる時（大学１年女性）	5

5　暴力の見聞きについて

問 14　暴力の見聞き

問 14　あなたはこれまでに、自分の周りの交際している人の間で、以下のような行為があるのを見聞きしたことはありますか。それぞれの。項目について当てはまる方に〇をつけてください。

図表 70　暴力の見聞き（時系列）



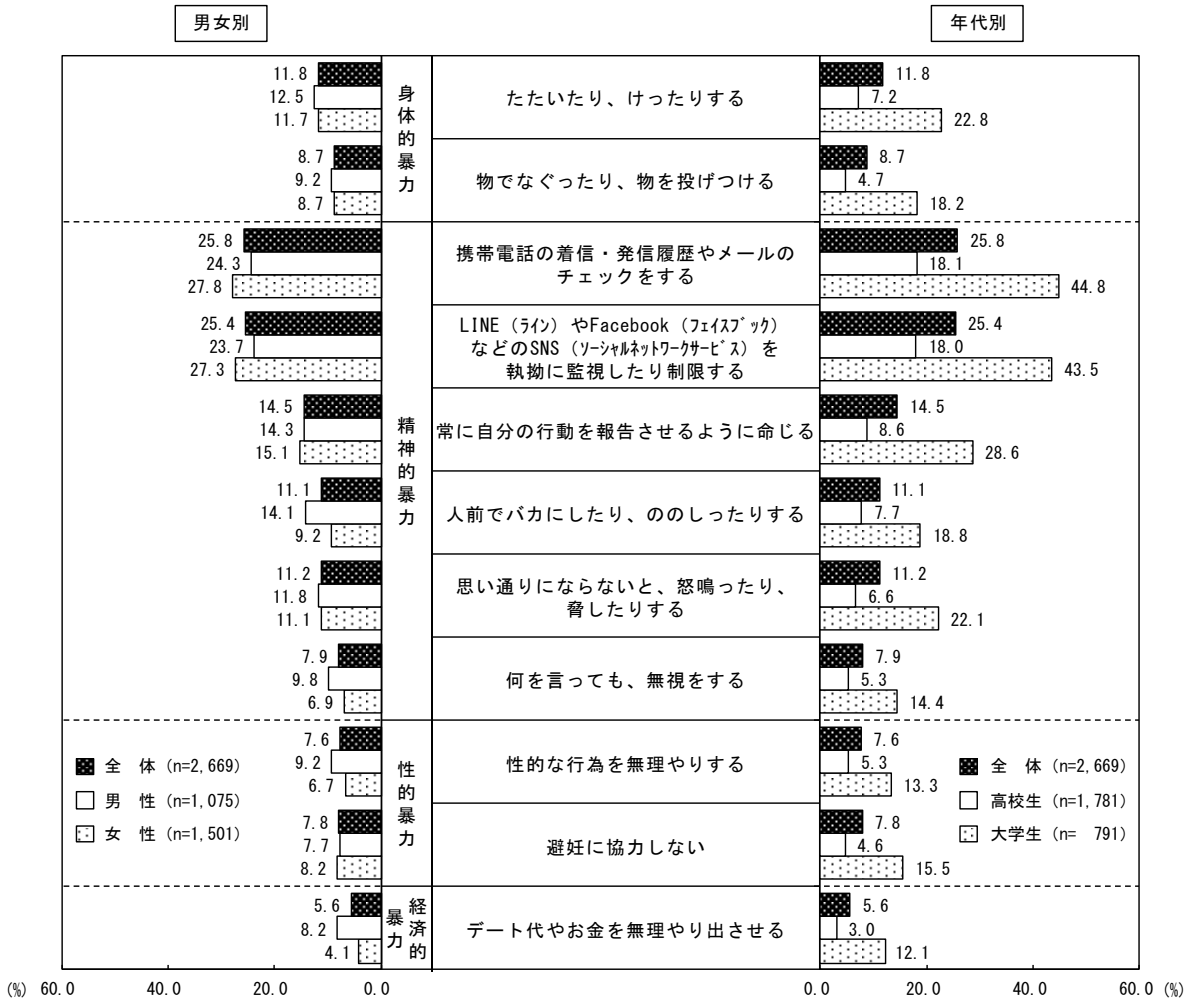
（注記）平成 21 年度調査では、「LINE（ﾗｲﾝ）や Facebook（ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ）などの SNS（ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ）を執拗に監視したり制限する」の設問項目なし

■全体の傾向

デートＤＶの見聞きについて聞いたところ、全体の 36.6%がデートＤＶを見聞きしたことがあると回答しています。具体的には「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」が 25.8%で最も多く、次いで「LINE(ﾗｲﾝ)や Facebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)などの SNS(ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ)を執拗に監視したり制限する」（25.4%）、「常に自分の行動を報告させるように命じる」（14.5%）などの順となっています。上位３項目はいずれも精神的暴力となっています。

過去の調査結果と比較すると、全ての項目が減少傾向にあり、デートＤＶを見聞きしたことがある割合は平成 26 年度（41.9%）より 5.3 ポイント減少しています。（図表 70）

図表 71　暴力の見聞き（男女別・年代列）



■男女別の傾向

男女別にみると、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（男性 24.3%、女性 27.8%）、「LINE(ﾗｲﾝ)や Facebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)などの SNS(ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ)を執拗に監視したり制限する」（男性 23.7%、女性 27.3%）は男女とも２割を超えていますが、それぞれ女性の方が３ポイント強高くなっています。また、「人前でバカにしたり、ののしったりする」（男性 14.1%、女性 9.2%）、「何を言っても、無視をする」（男性 9.8%、女性 6.9%）、「性的な行為を無理やりする」（男性 9.2%、女性 6.7%）、「デート代やお金を無理やり出させる」（男性 8.2%、女性 4.1%）などは男性の割合が高くなっています。（図表 71）

■年代別の傾向

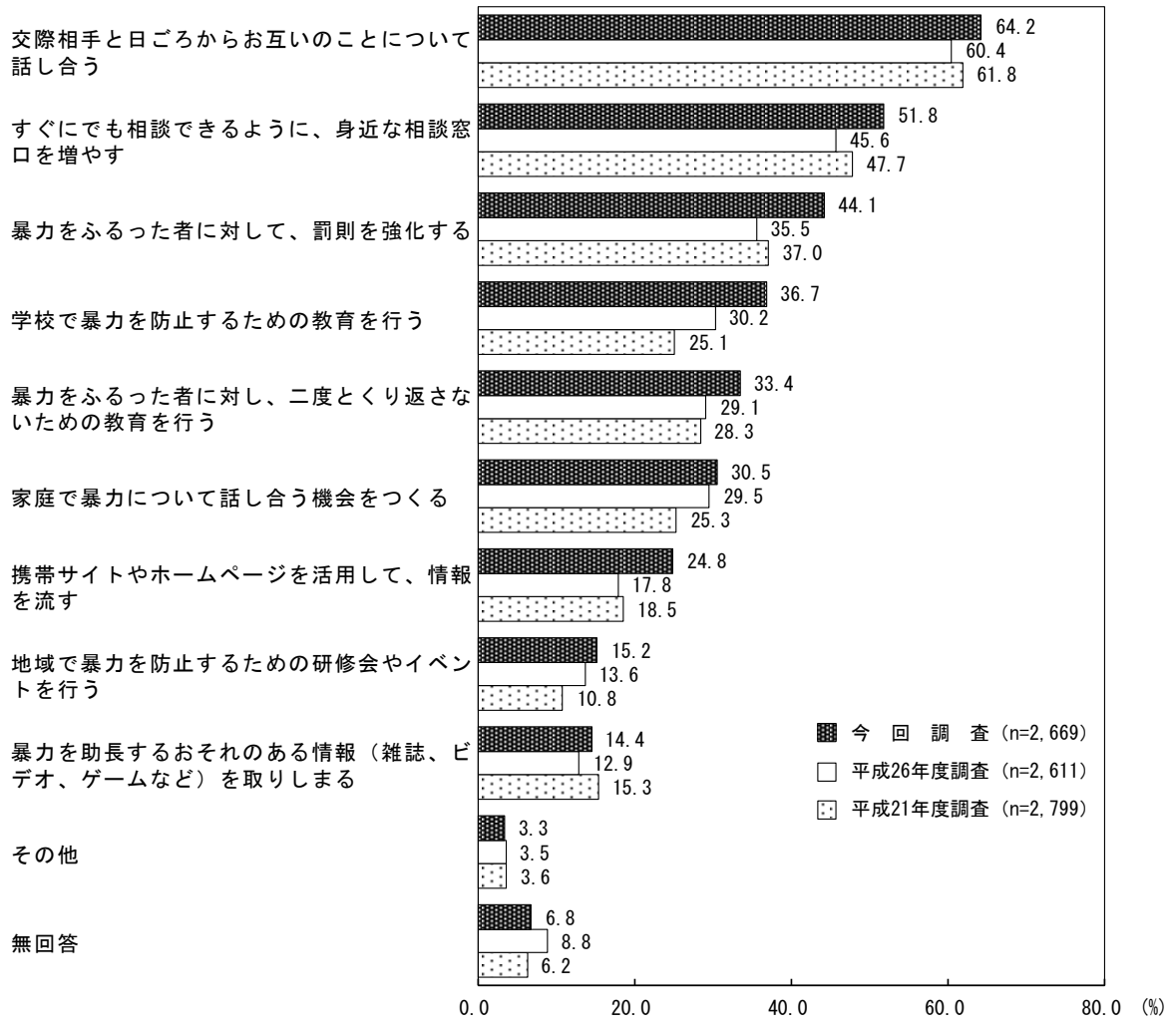
年代別にみると、全ての項目で大学生が高校生を倍以上上回っています。特に「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（高校生 18.1%、大学生 44.8%）、「LINE(ﾗｲﾝ)や Facebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)などの SNS(ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ)を執拗に監視したり制限する」（高校生 18.0%、大学生 43.5%）、「常に自分の行動を報告させるように命じる」（高校生 8.6%、大学生 28.6%）は大学生が高校生より２割以上高くなっています。（図表 71）

６　デートＤＶの防止について

問 15　デートＤＶ防止のために必要だと思うもの

問 15　交際相手との間柄における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（当てはまる番号すべてに○）

図表 72　デートＤＶ防止のために必要だと思うもの（時系列）

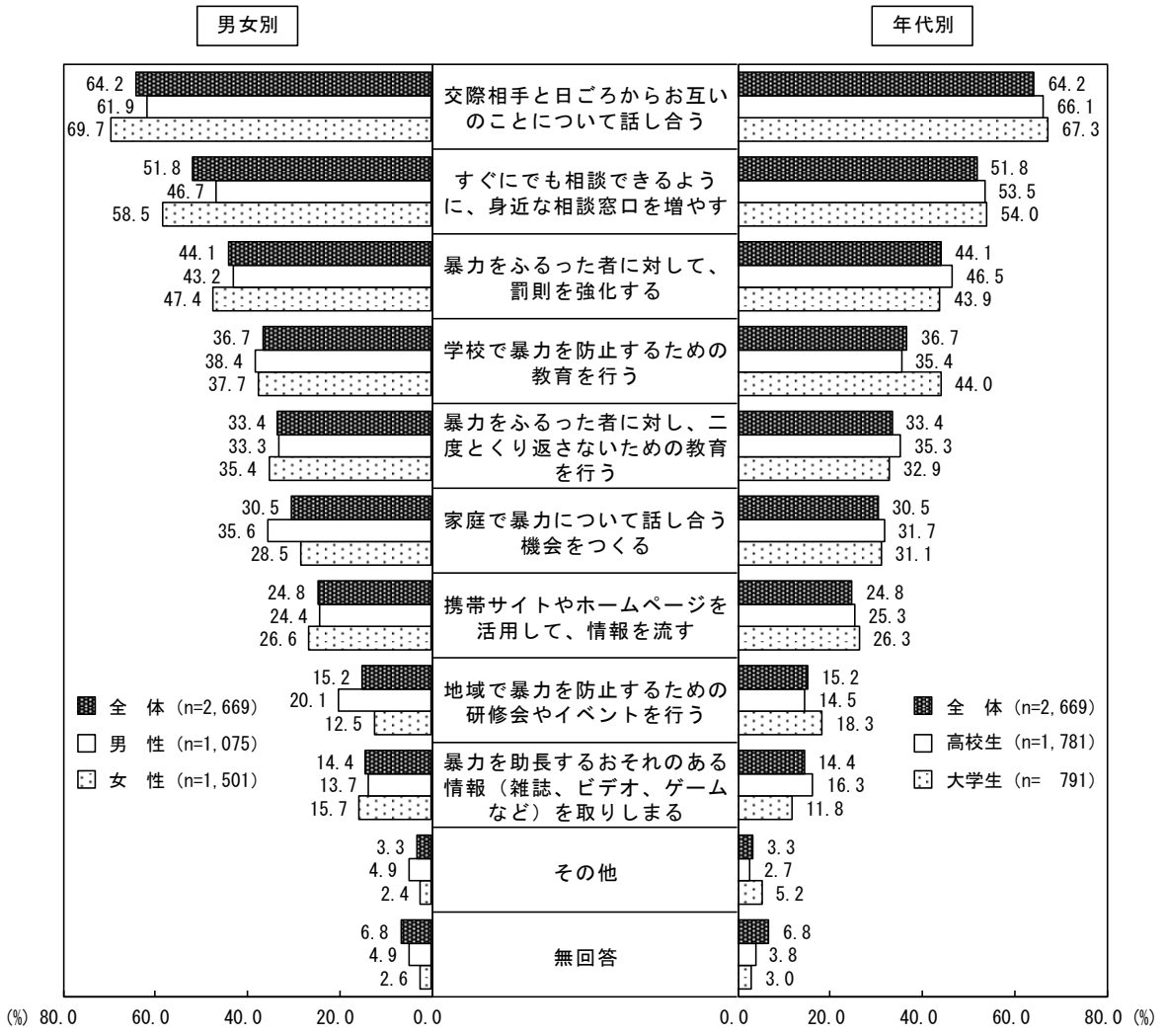


■全体の傾向

デートＤＶの防止のために必要だと思うものは、「交際相手と日ごろからお互いのことについて話し合う」が 64.2%で最も高く、次いで「すぐにでも相談できるように、身近な相談窓口を増やす」（51.8%）、「暴力をふるった者に対して、罰則を強化する」（44.1%）などの順となっています。

過去の調査結果と比較すると、ほとんどの項目が増加傾向にあり、「暴力をふるった者に対して、罰則を強化する」は平成 26 年度（35.5%）より 8.6 ポイント、「学校で暴力を防止するための教育を行う」（36.7%）は平成 21 年度（25.1%）に比べ 11.6 ポイント、平成 26 年度（30.2%）と比べても 6.5 ポイント増加し、増加率が高くなっています。（図表 72）

図表 73　デートＤＶ防止のために必要だと思うもの（男女別・年代列）



■男女別の傾向

男女別にみると、上位３項目はいずれも女性が男性を上回っており、「交際相手と日ごろからお互いのことについて話し合う」（男性 61.9%、女性 69.7%）、「すぐにでも相談できるように、身近な相談窓口を増やす」（男性 46.7%、女性 58.5%）については１割前後差が生じています。一方、「家庭で暴力について話し合う機会をつくる」（男性 35.6%、女性 28.5%）、「地域で暴力を防止するための研修会やイベントを行う」（男性 20.1%、女性 12.5%）は男性の割合が高くなっています。（図表 73）

■年代別の傾向

年代別にみると、「交際相手と日ごろからお互いのことについて話し合う」（高校生 66.1%、大学生 67.3%）、「すぐにでも相談できるように、身近な相談窓口を増やす」（高校生 53.5%、大学生 54.0%）については、高校生、大学生双方で過半数を占めています。また、「学校で暴力を防止するための教育を行う」（高校生 35.4%、大学生 44.0%）は、大学生が高校生を 8.6 ポイント上回っています。（図表 73）

■「その他」の回答

分類	主な内容	件数
交際相手の選択	○ （ＤＶを行う人と）付き合わない、別れる （高校１～３年男女、大学１～３年男性、大学１～２年女性） ○ 付き合う人を選ぶ（高校１～２年男性、大学２年男性）	22
家庭環境	○ 養育環境の整備（親が常識を教える、愛を持って養育など） （高校１年男性、大学１年男性、大学院男性） ○ 家庭環境の監視（家庭訪問の実施）（高校３年男女） ○ 小さい頃にもっと他人と接するべき。他人とかかわって嫌なこと、してはいけない事を学ぶ（大学１年男性）	6
感情のコントロール	○ 相互理解（愛し合う、互いのことを大切にする、仲良しになるなど） （高校１～３年男性） ○ 怒らない（高校２年女性） ○ 相手を怒らせない（大学２年女性）	5
相談しやすい 環境づくり	○ ＳＮＳで呼びかけて、ＳＮＳから相談サイトに行けるようにして、履歴を見ても相談してると思われないＵＲＬにしてもらう（大学１年女性） ○ 第三者、例えば共通の友人に相談にのってもらう（大学２年男性） ○ 相談を一刻も早くすべきと促す。相談しない被害者がいて、すぐに別れたが・・（大学３年男性） ○ 友人などに助けを求められる状態にあるようにするとか（大学４年女性） ○ もう少し話しやすい環境をつくってくれると良い。名前だけが知られている気がするので（大学２年女性）	5
法整備、罰則の強化	○ 罰則の強化（死刑、罰金）（高校３年男女） ○ 交際を一人が強要できない法律を作る（高校３年男性）	3
防止は困難	○ 自分自身（相手自身）変わらないと無理だと思う（高校３年女性） ○ そんな方法はない。結局はその人の人格の問題である（大学２年男性）	2
警察の積極的関与	○ 警察が家庭内・個人的な係争に積極的に関わるようにする （高校３年男性、大学２年女性）	2
教育	○ 男女は平等だという教育を行う（大学１年男性） ○ 小中学校にて性教育を行う（大学４年女性）	2
話し合い、 コミュニケーション	○ コミュニケーション（高校１年男性） ○ 落ちついて話し合う（大学１年男性）	2
その他	○ そもそも暴力をふるう（ＤＶ)なんてあまり聞かない（高校３年女性） ○ ねる（高校２年男性） ○ 地域間での結び付きを強化する（高校３年男性） ○ 真に愛し合ってる者なら暴力なんてふるわないはず（高校１年男性） ○ 暴力に至ってしまう根本の原因を解明させる（高校３年女性） ○ ＬＭ（大学２年女性） ○ やらない（大学３年男性）	7